

第 1 部

情報環境整備推進室 活動報告

- 第 1 章 HPC 事業室
- 第 2 章 ネットワーク事業室
- 第 3 章 認証基盤事業室
- 第 4 章 教育基盤事業室
- 第 5 章 学務教務支援事業室
- 第 6 章 ソフトウェア事業室
- 第 7 章 情報共有基盤事業室
- 第 8 章 ISMS 運用事業室
- 第 9 章 デジタル ID 検討タスクフォース
- 第10章 九大 CSIRT
- 第11章 情報セキュリティ対策基本計画室

第1章 HPC事業室

1.1 科学技術計算サービスに関する事項

- (1) スーパーコンピュータシステム玄界による大規模計算サービスを提供した。【参考資料1】
また、下記の大学には、包括契約に基づく計算サービスを提供した。【参考資料2】
 - ・ 福岡大学（平成17年度より継続）
 - ・ 九州工業大学（平成20年度より継続）
 - ・ 山口大学（平成20年度より継続）
 - ・ 広島大学（令和2年度より継続）
- (2) 理化学研究所の富岳を中心とする、革新的ハイパフォーマンズコンピューティングインフラ（HPCI）に、システム構成機関として参画しており、共用計算資源の提供および、他のシステム構成機関と協力してシングルサインオン環境の運用を行った。HPCI全体で8申請課題が採択された。
【参考資料3】
- (3) 平成22年度から文部科学省の「全国共同利用・共同研究拠点」に採択されたのを受け、「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」（ネットワーク型）に構成拠点として参加し、他の構成拠点と協力して、共同研究プロジェクト公募を実施した。九州大学情報基盤研究開発センター関係で15申請課題が採択された。【参考資料4】
- (4) 本センターおよび学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点で平成28年度より実施する、JHPCN 萌芽研究の公募事業について公募を行い、10申請課題を採択した。
- (5) データ活用社会創成プラットフォーム（mdx）の構成機関として、定期的に開催される運営委員会に参加し、運用支援を行った。

1.2 利用者支援・利用促進サービスに関する事項

- (1) 利用者からの問い合わせ 791 件(2026 年 3 月 31 日時点)に対し、メーカーと協力して調査し回答した。
- (2) 研究用計算機システム利用法に関するフォーラム等の利用者支援活動をオンラインにて実施した。
【参考資料5】
- (3) 情報基盤研究開発センターの研究用計算機システムの利用促進・普及活動として、以下のイベントに当センター紹介のためのポスター展示やブース出展を実施した。
 - ・ JHPCN第17回シンポジウム（2025年7月10日～7月11日）
- (4) 情報基盤研究開発センター民間利用サービスとして支援を行った。（採択件数 12 件 2026 年 3 月 31 日現在）
- (5) 情報基盤研究開発センターの研究用計算機システム運用スケジュール講習会、フォーラム等のイベント開催のような即時性が求められる案件について、以下の通り電子メールによる「研究用計算機システムニュース」を配信した。

- ・ 発行回数 10回 (No.581～No.590)

また、同じ内容を以下の情報基盤研究開発センターWebページで公開した。

<https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/users/news/2025/>

- (6) 利用者が研究成果を Web 形式で報告可能な、成果報告 Web システム（平成 27 年度導入）に登録された情報を元に、研究業績リストを Web ページに公開した。また、Forms を活用した成果報告システムを作成し公開した。

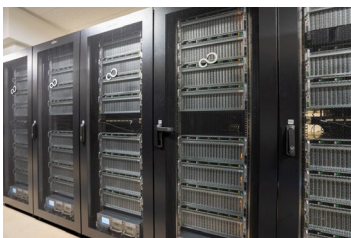
<https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/report/result/>

- (7) 特殊なスーパーコンピュータの利用について支援を行う重点支援制度、およびスーパーコンピュータを講義に活用するための講義利用制度など、各種特色ある需要に応じた利用制度を提供した。
- ・ 重点支援制度
 - ・ 講義利用
 - ・ トライアルユース

1.3 計算科学・情報システム関連研究の推進に関する事項

- (1) データ駆動イノベーション推進本部データ分析支援部門の運営協力を行った。

【参考資料1】令和7年度研究用計算機システムの概要

スーパーコンピュータシステム玄界		
ノードグループ A	ノードグループ B	ノードグループ C
		
富士通株式会社 PRIMERGY CX2550 M7 総理論演算性能： CPU FP64：7.47PFLOPS 総主記憶容量：512TiB 総 CPU コア数：122,880 コア	富士通株式会社 PRIMERGY GX2560 M7 総理論演算性能： CPU FP64：277.25TFLOPS GPU FP64：5.09PFLOPS 総主記憶容量： ホストメモリ：38.91TiB デバイスメモリ：14.29TiB 総 CPU コア数：4,560 総 GPU コア数：1,284,094	Supermicro GPU SuperServer SYS-821GE-TNHR 総理論演算性能： CPU FP64：14.34TFLOPS GPU FP64：536TFLOPS 総主記憶容量： ホストメモリ：16TiB デバイスメモリ：1,280GiB 総 CPU コア数：240 総 GPU コア数：135,168
HDD：55.2PB		
SSD：737.28TB		
令和6年7月導入		
令和12年2月まで運用予定		

【参考資料2】

九州大学情報基盤研究開発センター 研究用計算機システム包括契約のご案内

旧システムの IT0 では、包括制度をご利用いただきありがとうございました。

玄界でも IT0 と同様の包括契約制度を実施します。包括契約を締結された機関には出張講習会を開催します。日程・場所(オンラインまたは現地)・内容については、改めて相談させていただきます。

なお、玄界の利用者登録方法が文書から Web に変わったこと、および共有利用の利用負担金が月額定額制から従量制に変わったことから、包括契約をご担当いただく方、ならびに包括契約で玄界を利用される方、それぞれ以下の通り変更点がありますのでご注意ください。

[A. 包括契約をご担当いただく方]

1. 包括契約の流れ

まずメールで包括契約締結のご希望をお知らせいただいた後、利用申請ポータルを利用するためのポータルアカウントを作成していただき、さらに包括契約を利用する利用者のためのプロジェクトを作成していただきます。プロジェクト作成に当たって、アカウント数をあらかじめお伝えいただく必要はありません。

ポータルアカウント作成とプロジェクト作成については以下のページを参照ください。

<https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/system/Genkai/howto/>

2. スーパーコンピュータアカウントと利用者登録

玄界を利用するには、ポータルアカウントとは別にスーパーコンピュータアカウントが必要です。プロジェクト作成時は、プロジェクトを作成した方(代表者)のスーパーコンピュータアカウントのみが発行されます。その後、利用希望者から送付されたポータルアカウントをプロジェクトに追加していただくと、その方のスーパーコンピュータアカウントがメールと Web でご本人に通知されます。プロジェクト参加者の追加については以下のページを参照ください。

https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/system/Genkai/howto/join_project.html

3. 利用負担金

玄界ではノードグループ A、B、C が利用可能です。それぞれの詳細は以下のページを参照ください。

<https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/system/Genkai/hardware/>

また、IT0 と同様に共有利用タイプ(ノードグループ A、B、C)と固定利用タイプ(ノードグループ A、B)をお選びいただけます。

このうち共有利用タイプは、あらかじめ購入したポイントを使用したノード数と時間の積

に応じて消費する従量制でご利用いただきます。ポイントはそのプロジェクトの参加者で共有するものですので、例えば誰か一人が大量に消費すると他の方がほとんど利用できなくなります。ポイントは年度途中でも追加購入可能です。なお、システム全体で年間に販売可能なポイント量には上限があり、年度途中で売り切れた場合はそれ以降の購入は不可となりますのでご注意ください。

一方、固定利用タイプの利用負担金、およびストレージの利用負担金は IT0 と同様の月額定額制です。

なお、玄界では、プロジェクト1件当たり月額 130 円を基本負担金としていただきます。

この基本負担金には 1TB の大容量ストレージが含まれます。

利用負担金の詳細については以下のページを参照ください。

https://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/service/genkai_fee_list.html

4. 利用者情報の管理

玄界では各利用者が自分と同じプロジェクトの他の参加者のお名前とメールアドレスを参照可能です。

もし包括契約での利用を希望される利用者で、他の利用者にこれらの情報を開示したくない方がいらっしゃる場合、包括契約をご担当いただく方が代表として複数のプロジェクトを作成していただき、利用者を分けていただくことが出来ます。

また、利用者(プロジェクト参加者)に外国籍または特定類型に該当する方がいる場合、確認書を提出いただき審査を受ける必要があります。

B. 包括契約で玄界を利用される方

1. 利用開始

まず利用申請ポータルを利用するためのポータルアカウントを作成していただき、その情報を包括契約のご担当者様にお送りいただきます。それを包括契約のご担当者様が利用申請ポータルに追加すると、通常、数営業日中にその方のスーパーコンピュータアカウントが発行されます。前述の通りスーパーコンピュータアカウントはメールと Web でご本人に直接通知されます。

2. 利用上限

前述の通り、共有利用タイプの場合、実行したジョブの使用ノード数と実行時間の積に応じてポイントを消費します。包括契約として購入されたポイントを使い切ると、ポイントを追加するまでジョブを実行できなくなります。

【参考資料3】令和7年度 HPCI 採択課題

No.	利用研究課題名	研究課題代表者名	所属機関名
1	ハイレントロピー合金触媒探索と酸素還元反応活性因子の解明	佐原 亮二	物質・材料研究機構 構造材料研究拠点
2	アクチンフィラメント結合・解離の分子シミュレーション	森次 圭	大阪公立大学大学院・理学研究科
3	木星磁気圏のハイブリッドMHD連成シミュレーション	加藤 雄人	東北大学大学院理学研究科
4	晶癖制御に向けた溶液中結晶成長の全原子MDによる解析	松林 伸幸	大阪大学 大学院基礎工学研究科
5	分子シミュレーションを利用した付着仕事の新規評価手法の開発	小嶋 秀和	大阪大学 基礎工学研究科
6	Advancing Japanese Medical Text Generation in Large Language Models through Fine-Tuning and Innovative RAG Frameworks	Li Zihui	Information Technology Center, The University of Tokyo.
7	自由エネルギー摂動法パイプラインの高度化	桜庭 俊	量子科学技術研究開発機構
8	電子状態理論と機械学習法を融合した核酸-分子ドッキング法の開発	Ivonina Mariia	九州大学エネルギー研究教育機構

【参考資料4】学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点
公募型共同研究 2025 年度採択課題

2025年度採択課題 74課題（145共同研究拠点）
国際共同研究課題 5、企業共同研究課題 0、一般共同研究課題 69
※この他に萌芽型共同研究課題が採択予定です。
・課題分野の略称
計算：大規模計算科学分野 データ：データ科学・データ利活用分野

国際共同研究課題

課題番号	研究課題名	研究課題代表者 (所属)	課題分野	共同利用・共同研究拠点	mdx利用
jh250027	Innovative Computational Science by Integration of Simulation/Data/Learning on Heterogeneous Supercomputers	中島研吾 (東京大学)	計算	北大、東大、名大、 九大	○
jh250028	High resolution simulation of cardiac electrophysiology on realistic whole-heart geometries	中島研吾 (東京大学)	計算	東大、名大	
jh250037	大規模アプリケーションの高性能な実用的アクセラレータ対応手法	下川辺 隆史 (東京大学)	計算	東大、名大	
jh250043	Innovative Multigrid Methods III	藤井昭宏 (工学院大学)	計算	東大、名大、京大、 九大	

国際共同研究課題(NHR)

jh250059	Energy Efficient Operation for Supercomputer Systems	瑠敏博 (東京大学)	計算	北大、東北大、東大、科学大、 名大、京大、阪大、 九大	
----------	--	---------------	----	---------------------------------------	--

一般共同研究課題(1/2)

課題番号	研究課題名	研究課題代表者 (所属)	課題分野	共同利用・共同研究拠点	mdx利用
jh250001	環境因子を考慮した非電離放射線ばく露における安全性評価	小寺紗千子 (名古屋工業大学)	計算	東北大	
jh250002	FMOプログラムABINIT-MPの次世代化	望月祐志 (立教大学)	計算	東北大、東大、名大、 九大	
jh250005	Logarithm Conformation Representation)による新規圧縮性流体ソルバーの開発	中澤嵩 (金沢大学)	計算	阪大	
jh250006	非構造格子粒子を用いた地震応答PDIによる地盤破壊現象の究明	新保泰輝 (石川工業高等専門学校)	計算	東大	
jh250008	電気モータ直接冷却の除熱量定量評価のための大規模数値解析	金田昌之 (大阪公立大学)	計算	科学大	
jh250010	長鎖型シークエンスに基づくハプロタイプカタログ構築と異なるクラウド拠点間での横断的バッチジョブシステム試験実装	長崎 正朗 (九州大学)	データ	東大、京大、 九大	○
jh250011	マイクロノズル加速によるGeVプロトン生成の3次元シミュレーション	村上匡且 (大阪大学)	計算	阪大	
jh250012	標準的な水環境評価に向けた流動生態系シミュレーションシステムEcoPARIのプラットフォーム構築	松崎 義孝 (海上・港湾・航空技術研究所)	計算	東大、阪大	○
jh250013	動的縮約モデルによる多階層電磁乱流シミュレーションコード開発	三浦英昭 (核融合科学研究所・研究部)	計算	東大、名大	
jh250014	宇宙地球惑星系連成シミュレーションに向けた計算技術開発	三宅洋平 (神戸大学)	計算	京大、 九大	
jh250015	ソフトウェア工学による自動チューニング技術の新展開	片桐 孝洋 (名古屋大学)	計算	東大、名大、 九大	
jh250016	大規模比較ゲノム解析による病原細菌の進化と病態発症機構の解明	山口雅也 (医薬基盤・健康・栄養研究所)	計算	阪大	
jh250017	次世代災害対応のための視覚言語モデルの構築	横矢直人 (東京大学)	データ	東北大、東大	
jh250018	高性能・高信頼な数値計算手法と応用の新展開 (2)	片桐孝洋 (名古屋大学)	計算	北大、東大、科学大、名大、京大、 九大	
jh250019	次世代計算機の潜在能力を引き出すための科学技術アプリケーションの刷新	横田理央 (東京科学大学)	計算	北大、科学大、京大	

jh250020	気候変動が想定最大クラスの降雨に与える影響評価：線状降水帯を対象として	平賀優介 (東北大学)	計算	東北大	
jh250021	リザーバーコンピューティングを用いた流体モデリングの高度化	齊木吉隆 (一橋大学)	計算	東大	
jh250022	数値真空槽の実現に向けた中性粒子流れモデリング手法の確立	西井啓太 (東京都立大学)	計算	東大	
jh250023	甲虫翅構造の模倣による火星飛行機向け柔軟膜翼の膜構造-空力連成計算と翅脈様式の最適化	金崎雅博 (東京都立大学)	データ	北大	
jh250024	植物空力予測のためのデジタルプラットフォームの構築	高橋裕介 (北海道大学)	計算	北大、科学大	
jh250026	デトネーション燃焼器を利用した超音速乱流燃焼促進法に関する大規模数値シミュレーションによる物理解明	松尾亜紀子 (慶應義塾大学)	計算	東北大	
jh250029	マルチモーダル基盤モデルのための選択的忘却に関する研究	入江豪 (東京理科大学)	データ	東大	○
jh250030	Phase-field法とデータ科学によるデンドライト成長計算に必要な物性値推定	高木知弘 (京都工芸繊維大学)	計算	科学大	
jh250031	グラフ構造で一般化された動的負荷分散フレームワークに基づくマルチスケールシミュレータの開発	森田直樹 (筑波大学)	計算	東大、阪大	
jh250032	QR分解に関する高性能計算技術の研究	深谷猛 (北海道大学)	計算	北大、東北大、東大、京大、阪大、 九大	
jh250033	SINETを介したデータベース基盤とHPC基盤の連携による医療画像解析基盤実現に関する研究	村尾晃平 (国立情報学研究所)	データ	名大	○
jh250034	データ科学計算フレームワーク ODAT-SE の高度化と高性能化	工藤周平 (電気通信大学)	計算	北大、東大	
jh250035	人機一体気象モデリングで拓く次世代メソアンサンブル気象予測システム	澤田洋平 (東京大学)	計算	東大、名大	
jh250039	内部自由度を持つ粒子群と乱流の相互作用に関する大規模シミュレーション	渡邊威 (名古屋工業大学)	計算	名大	
jh250040	超大規模高分子系MDデータの位相幾何解析の並列高速化基盤検討	萩田克美 (防衛大学校)	計算	北大、東大、阪大、 九大	○
jh250041	Study on the real effect of non-blocking collective communications	南里豪志 (九州大学)	計算	北大、東大、名大、京大、阪大、 九大	
jh250044	環境循環型社会の実現に向けたポリマーインフォマティクスのデータ基盤構築	佐藤 正寛 (東京大学)	データ	東大、阪大	○
jh250045	波動散乱場の周波数応答の高速導引法の開発とメタマテリアルデバイス設計への応用	松本安弘 (東京科学大学)	計算	東大、科学大、京大	
jh250046	CPUとGPUを同時利用する自己学習モンテカルロ法の開発	永井佑紀 (東京大学)	計算	東大	

一般共同研究課題(1/2)

課題番号	研究課題名	研究課題代表者 (所属)	課題分野	共同利用・共同研究拠点	mdx利用
jh250048	生成モデルを用いた固体材料発見手法の追求	華井雅俊 (東京大学)	データ	東大	
jh250050	シミュレーションを活用した手術シーン認識に関する研究	小田昌宏 (名古屋大学)	計算	名大	
jh250051	数値乱流データベースを用いた統計的ダウンスケーリングによる街区内乱流場の即時診断	稲垣厚至 (東京科学大学)	計算	科学大	○
jh250053	MPM と FEM による未解明な大規模土砂災害の数値シミュレーション	寺田賢二郎 (東北大学)	計算	東大、名大	
jh250055	ReplicaEUIJP: 異なる計算機環境における気候シミュレーション再現性に関する研究	八代尚 (国立環境研究所)	データ	東大	
jh250056	変分マルチスケール法による速度・圧力同時解法型粒子法	浅井光輝 (九州大学)	計算	東大、 九大	
jh250060	数値シミュレーションで読み解く最深宇宙の構造形成	西澤淳 (岐阜聖徳学園大学)	計算	東大、阪大	
jh250062	複数拠点の連携による緊急ジョブ実行基盤の構築と評価	滝沢寛之 (東北大学)	計算	東北大、名大、阪大	○
jh250063	最適化ベンチマーク問題自動生成のための大規模言語モデル駆動型進化的アルゴリズム	原田智広 (埼玉大学)	計算	東大	
jh250064	合成人口プロジェクト: エージェントへの生活行動時間割当て	村田忠彦 (大阪大学)	データ	北大、東大、阪大	
jh250066	宇宙初期における位相欠陥の一般相対論的シミュレーション	北嶋直弥 (東北大学)	計算	東北大	
jh250067	狭隙や薄い物体を含む流体場の大規模数値解析と工学応用	川本裕樹 (東海大学)	計算	東北大	
jh250068	大規模線形行列方程式に対する数値解法の高速化に関する研究	佐竹祐樹 (北海道大学)	計算	北大、東大、京大	
jh250070	NDE4.0加速のための高性能波動解析・逆解析手法の開発	斎藤隆泰 (群馬大学)	計算	科学大、京大	
jh250072	機械学習駆動のマルチスケールシミュレーションによるグリーン触媒設計	森川良忠 (大阪大学)	データ	阪大	
jh250073	AI leveraged multiscale scheme for kinetic equations	安田修悟 (兵庫県立大学)	計算	阪大	
jh250074	高レイノルズ数乱流のデータ駆動科学プラットフォームの構築	石原卓 (岡山大学)	データ	名大、 九大	○
jh250075	CO2と水の注入による地下岩体フラクチャリングプロセスを予測する大規模数値シミュレーションとCO2活用型地熱発電への展開	緒方奨 (大阪大学)	計算	北大、阪大	
jh250076	現実的な原始惑星系円盤のガス散逸シナリオ構築に向けた多角的アプローチ	高柳真介 (大阪大学)	計算	東大、阪大	
jh250078	グラフニューラルネットワークと生成モデルを用いた非晶質系動力学予測システム開発	芝 隼人 (兵庫県立大学)	計算	東大	○
jh250079	Study on Efficient File IO for GPU	塙敏博 (東京大学)	計算	北大、東大、科学大、 九大	
jh250081	End-to-End Differentiable Fluid-Particle Simulations	John Jairo Molina Lopez (Kyoto University)	計算	東大、京大	
jh250082	フラクタル樹木に対する大規模流体シミュレーション	大西領 (東京科学大学)	計算	科学大	

jh250083	“All Core Computing”によるプログラム最適化に関する研究	大島聡史 (九州大学)	計算	北大、東大、科学大、名大、 九大	
jh250084	大規模地震波シミュレーションによる沈み込み帯の波形トモグラフィ：2011年東北沖地震震源域と南西諸島域	岡元太郎 (東京科学大学)	計算	科学大、名大	
jh250087	後流渦によって誘発されるガス巻込みに対する二相格子ボルツマン法の検証	シンプル ヨス (日本原子力研究開発機構)	計算	東大	
jh250088	脳活動予測に特化した大規模言語モデルの構築	小林 一郎 (お茶の水女子大学)	データ	東大	
jh251002	Tomo-e Gozen データプラットフォームの開発	瀧田 伶 (東京大学)	データ		○
jh251003	機械学習向けストレージアーキテクチャの研究	中村隆喜 (東北大学)	データ	東北大	○
jh251004	財務ビッグデータの可視化と統計モデリング	地道正行 (関西学院大学)	データ	東大	○
jh251005	材料研究用データプラットフォームの大規模化および深化	華井雅俊 (東京大学)	データ	東大	○
jh251007	単語間に区切りのない書写言語における係り受け解析エンジンの開発	安岡孝一 (京都大学)	データ		○
jh251011	ビヨンド・ゼロカーボンに向けた技術の社会実装を加速する情報基盤「RE-CODE」の開発	兼松 祐一郎 (東京大学)	データ	東大	○
jh251012	全球kmスケールモデルの共通解析基盤の確立	佐藤正樹 (東京大学)	データ		○
jh251015	多次元高精細地表面情報 (MHESD) の地球表層科学的基盤構築	早川裕弐 (北海道大学)	データ		○

※所属は採択時点

【参考資料5】2025 年度イベント開催報告

1. 講習会

	名 称	開催時期	開催場所	内 容	参加者
1	スーパーコンピュータシステム玄界利用講習会	5月19日	伊都地区+オンライン	スーパーコンピュータ「玄界」の利用方法に関する実習付きの講習会を開催しました。玄界の活用方法の紹介、質疑応答、計算機室見学会を実施しました。	28
2	スーパーコンピュータシステム玄界利用講習会	5月29日	伊都地区+オンライン	スーパーコンピュータ「玄界」の利用方法に関する実習付きの講習会を開催しました。玄界の活用方法の紹介、質疑応答、計算機室見学会を実施しました。	41
3	スーパーコンピュータシステム玄界利用講習会	5月30日	伊都地区+オンライン	スーパーコンピュータ「玄界」の利用方法に関する実習付きの講習会を開催しました。玄界の活用方法の紹介、質疑応答、計算機室見学会を実施しました。	21
4	“超”入門 講習会シリーズ スーパーコンピュータ超入門	9月1日	伊都地区+オンライン	スーパーコンピュータが大規模な計算を高速に処理する仕組みを紹介し、その性能を生かすためのプログラムの種類と使い方を説明しました。	8
6	“超”入門 講習会シリーズ 並列プログラム (OpenACC) 超入門	9月2日	伊都地区+オンライン	GPUを使って並列計算を容易に実現できるOpenACCについて、利用方法を紹介しました。	5
5	“超”入門 講習会シリーズ スーパーコンピュータ超入門	9月5日	オンライン	スーパーコンピュータが大規模な計算を高速に処理する仕組みを紹介し、その性能を生かすためのプログラムの種類と使い方を説明しました。	14
7	“超”入門 講習会シリーズ 並列プログラム (OpenACC) 超入門	9月11日	オンライン	GPUを使って並列計算を容易に実現できるOpenACCについて、利用方法を紹介しました。	9
8	“超”入門 講習会シリーズ 並列プログラム (OpenMP) 超入門	9月12日	オンライン	1台の計算機に搭載された多数の「CPUコア」を使った並列プログラムでよく用いられる OpenMPという並列プログラミングモデルを紹介しました。	8
9	“超”入門 講習会シリーズ 並列プログラム (OpenMP) 超入門	9月17日	オンライン	1台の計算機に搭載された多数の「CPUコア」を使った並列プログラムでよく用いられる OpenMPという並列プログラミングモデルを紹介しました。	5
10	“超”入門 講習会シリーズ 並列プログラム (MPI) 超入門	9月24日	オンライン	複数台の計算機から構成されるクラスター型並列計算機で一般的に利用されている通信インターフェースであるMPIについて紹介しました。	6
11	“超”入門 講習会シリーズ 並列プログラム (MPI) 超入門	9月26日	オンライン	複数台の計算機から構成されるクラスター型並列計算機で一般的に利用されている通信インターフェースであるMPIについて紹介しました。	4
12	“超”入門 講習会シリーズ 機械学習超入門	10月7日	オンライン	機械学習の基本的な考え方を解説し、スーパーコンピュータ上で代表的なフレームワークを用いた演習を行いました。	10
13	“超”入門 講習会シリーズ 機械学習超入門	10月15日	オンライン	機械学習の基本的な考え方を解説し、スーパーコンピュータ上で代表的なフレームワークを用いた演習を行いました。	5

2. イベント

	名 称	開催時期	開催場所	内 容	参加者
1	先駆的科学計算フォーラム 2025	6月11日	オンライン +伊都地区	最新のハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)に関する先端的研究成果の紹介や研究用計算機システム利用者の情報交換の場として、標記フォーラムを開催いたしました。 センターの研究用計算機システムを使われたことがない方、計算科学に興味をお持ちの方にも参加を呼びかけました。	48
2	玄界GPUミニキャンプ2025	10月20日 -27日	オンライン +伊都地区	玄界に搭載されたGPUを使って高速に処理を行いたい対象問題を持つ方を対象に、玄界上での実践の機会を提供しました。	41

第2章 ネットワーク事業室

2.1 基幹ネットワークサービス・遠隔地ネットワーク接続サービスに関する事項

(1) 基幹ネットワーク整備実施状況

【表1】2025年度 ネットワーク整備実施状況

地 区 名	事 項 名	整備経費
DC 2025年6月	SINET 接続冗長用回線敷設	③
伊都 2025年7月	ウエスト2号館（UPS更新）	③
伊都 2025年7月	ウエスト2号館（基幹スイッチ増設）	③
筑紫 2025年11月	天神-筑紫キャンパス間接続冗長化	③
唐津 2025年12月	ネットワーク回線切り替え	③
伊都 2026年3月	伊都キャンパスコア、イースト1,2号館ビルコアスイッチ更新	③

※整備経費 ①：建物新営設備費 ②：施設整備費補助金
 ③：情報統括本部運営経費 ④：部局経費
 ⑤：寄付金

(2) 基幹ネットワークの保守管理、運用

ネットワークの障害対応では、電話及び遠隔操作での対応、現地での直接対応を行った。また、障害を起こした機器の種類や件数及び傾向を把握し、迅速な障害対応を行えるよう検討を行った。

【表2】

運用においては、KITEの運用状況や各部局からの要望に応じて基幹ネットワークの設定変更を行い、KITEの安定性と利便性の向上を図った。【表3】

【表2】2025年度 スイッチ障害件数

項 目		件 数	
障害発生件数（総数）		46 件	
障害区分		基幹ネットワーク障害 (ネットワーク停止・遅延等)	機器エラー検知 (基幹ネットワーク影響なし)
原因機器の内訳	対外接続ルータ	0	0
	全学ファイアウォール	0	0
	コアスイッチ	1	0
	ビルスイッチ	2	0
	フロアスイッチ	10	0
	無線アクセスポイント	15	0
	PoE スイッチ	11	0
	遠隔地ルータ	3	0
	部局 HUB	0	0
	その他	4	0
合計		46	0

【表3】2025年度 ネットワーク設定変更件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	20	8	11	7	2	7	3	6	8	3	4	9	85

(3) ネットワーク予算の効率的な執行

限られた予算の中で、最新かつ高度なネットワーク機器を導入するための市場及びメーカー等に対して調査し、種々検討を行った。

- ・ アラクサラネットワークス社 (4/15、12/12、12/15)、アライドテレシス社 (6/17) と打合せを行い、基幹ネットワーク機器／無線機器について情報収集及び意見交換を実施した。
- ・ 地域×Tech九州 (5/15-16) に参加し、情報収集を行った。
- ・ 丸紅社と打合せし、同社の最新の機器・サービスについて情報収集を行った (5/23)
- ・ Interop (6/11-13) に参加し情報収集を行った。
- ・ テクマトリックス社と打合せし、同社の最新の機器・サービスについて情報収集を行った (6/20)
- ・ エーピーコミュニケーションズ社と打合せし、同社の最新の機器・サービスについて情報収集を行った。(6/26)
- ・ ソフトバンク社と打合せし、同社の最新の機器・サービスについて情報収集を行った。(7/7、7/24)
- ・ スリーシェイク社と打合せし、同社の最新の機器・サービスについて情報収集を行った。(7/8、8/25)
- ・ 内田洋行社と打合せし、同社の最新の機器・サービスについて情報収集を行った。(7/23)
- ・ パロアルト社と打合せし、同社の最新の機器・サービスについて情報収集を行った。(8/27)
- ・ Arista社の製品について基幹ネットワークの運用に適しているか検証を開始した。(9/19)

(4) キャンパスネットワークにおける IP アドレスの利用状況の確認

本学の保有するグローバルIPアドレスを支線LAN管理者に配分し、各支線LANにおいてIPアドレス管理台帳等による管理の徹底を指示している。また、キャンパスネットワークにおけるIPアドレスの利用状況を確認するため、各キャンパスコアスイッチ・全学ファイアウォールのログを取得している。

(5) バックアップ機器等の整備

安定したネットワーク環境を整えるため、機器故障時のバックアップ機器及びメーカーサポートが終了する機器の今後の対応について確認した。更新に伴い撤去した機器を有効活用するなど、今後も機器調達の効率化を図ることとした。

- ・ 機器故障時に迅速に対応するため、バックアップ機器の整理、棚卸しを行い不足がないか調査した。(4/7、5/23、6/23、10/24、10/29、10/30、10/31、11/4、11/5)
- ・ NTT西日本 (4/15) と打合せを行い、メーカーサポートが終了する機器の今後の対応について確認した。

(6) 基幹ネットワーク機器（コアスイッチ）の更新

アラクサラネットワーク（株）が令和8年1月にフォーティネット社に統合されることに伴い、導入後8年が経過した基幹ネットワーク機器（コアスイッチ）について、ハードウェア保守の追加購入が不可となったため、メーカーによる保守期間が終了となる基幹ネットワーク機器（コアスイッチ）の更新について対応した。

○対象機器

- ・ 伊都キャンパスコアスイッチ
- ・ イースト1号館／2号館ビルコアスイッチ

2.2 無線LANサービスに関する事項(kitenet、edunet、eduroam)

(1) 九州大学無線 LAN アクセスサービス (kitenet)

- ・ 主要4キャンパス(伊都、病院、筑紫、大橋)及び本学のサテライトで本サービスを利用することができる。
- ・ 無線LAN (kitenet) アクセスポイントの設置台数は1988台

【表 4】 2025 年度 kitenet 整備状況

建物名称	区分	アクセス ポイント数	整備経費
伊都地区 ウェスト 2 号館	新設	1	部局経費
遠隔地 標本資料研究・教育ブランチ	新設	1	〃
大橋地区 事務支援センター	新設	1	〃
伊都地区 事務支援センター	新設	1	〃
大橋地区 7 号館	新設	2	〃
病院地区 歯学部本館	更新	17	〃
病院地区 歯学研究院研究棟	更新	7	〃
箱崎地区 旧工学部本館	移設	3	〃
伊都地区 ウェスト 1 号館	更新	45	情報統括本部 運営経費

※無線LANアクセスポイント設置状況表 (kitenet)

https://www.nc.kyushu-u.ac.jp/media/gakunai/kitenet_list.pdf

- ・ 申請に基づき、学外者へ無線LANサービスを提供(2025年度申請件数:337件)

(2) 教育用無線 LAN (edunet)

- ・ 伊都、病院、筑紫、大橋の各キャンパスの講義室、図書館、情報サロン等で利用可能

※無線LANアクセスポイント設置状況表 (edunet)

<https://www.nc.kyushu-u.ac.jp/campus-wifi/edunet/>

(九州大学教育用無線LANサービス (edunet) 3. 設置場所)

- ・ アクセスポイント146台の更新を下半期に実施し、老朽化したアクセスポイントを全台更新した。

(3) eduroam

- ・ eduroam JPサービス(国立情報学研究所が運営)に正規加入し、学内のeduroam拠点を順次、拡大している。
- ・ RADIUSサーバの更新を実施した。

(4) 無線 LAN サービス運用

- ・ 無線LAN (kitenet, edunet) の動作状況を調査するためのツール (Aruba UXI) を中央図書館、理系図書館、イースト1号館に設置し、測定した。
- ・ 無線LANの動作状況確認について、Raspberry Pi上で動作するツールを作成・検証し、Aruba UXIの代替として問題なく動作することを確認した。ツールは理系図書館、椎木講堂に設置し、測定している。
- ・ kitenetの安定動作のため、伊都キャンパス内のエリアごとにクライアントが利用するネットワークを分割した。(9月)

kitenet、edunetは、全学共通IDにより利用可能。本学構成員が、学外でeduroamを利用する場合は、国立情報学研究所が提供する認証連携IDサービスのアカウントにより利用可能。

URL: <https://federated-id.eduroam.jp/>

2.3 ネットワーク統計情報収集、障害対応、技術支援および教育・広報サービス

(1) ネットワーク障害対応サービス及び技術支援サービスに関する事項

下記の対応を実施した。

- ・ キャンパスネットワークの障害を検知し、その復旧に努めた。
- ・ 利用者からの問い合わせに対し、電話対応を行った。キャンパスネットワークの障害については、どの機械に原因があるのか、その切り分け方についても説明を交えながら対応した。また、無線LANの接続方法について、電話だけで解決できない場合、持ち込みPCに対して直接対応も行った。

【表 5】 2025 年度 電話対応件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	256	196	211	164	159	194	220	162	191	213	182	210	2358

- ・ 利用者からプライベートネットワークを構築したい等の相談に対し、物理的及び論理的なVLANの構築について支援を行った。
- ・ ネットワーク機器監視システムからコアスイッチ278件、フロアスイッチ5408件のメール通知を受け調査・対応を行った。(停電による停止通知を含む)

(2) ネットワーク関係技術セミナーサービスに関する事項

支線LAN管理者向け講習会（主催：情報統括本部ネットワーク事業室）を開催する。

- ・ イベント名 : 支線LAN講習会
 - ▶ 開催日 : 2025年10月22日(水) 15:00～16:30
 - ▶ 開催場所 : オンライン
 - ▶ 参加者 : 91名
 - ▶ 内容 : 支線LAN管理者の役割と申請手続について
講習会:生成AIのセキュリティリスク
- ・ イベント名 : 情報セキュリティ講習会
 - ▶ 開催日 : 2026年3月24日(火) 15:00～16:30
 - ▶ 開催場所 : オンライン
 - ▶ 参加者 : 64名
 - ▶ 内容 : 支線LAN管理者の役割と申請手続について
講習会:生成AIのセキュリティリスク

2.4 情報セキュリティ対策サービスに関する事項

(1) 情報セキュリティ対策サービス

情報セキュリティや著作権侵害などのインシデントをいち早く発見し、九大CSIRTと連携して情報提供を行った。

- ・ 全学ファイアウォールの監視等業務を外部委託するとともに国立情報学研究所セキュリティ運用連携サービスに参加し、本学インシデントに関する情報を精査し、インシデント対策を行った。被害を検知した場合は、各支線LAN管理者に対応を行うよう連絡し、その際予防及び対応策についても適時アドバイスをを行った。
- ・ 本学禁止ソフトの使用検知について、全学ファイアウォール等を用いて、各種ソフト（プロトコル）に対応している。禁止ソフト等の使用が検知された際、支線LAN管理者に対し利用者への注意喚起及び対応依頼を行った。
- ・ 脆弱性検知ツールNessusによる脆弱性診断調査を実施した。（176件）

(2) 全学ファイアウォールシステムに関する事項

全学ファイアウォールシステムについて、九大CSIRTと連携して管理・運用を行った。また、リース期間の終了に伴い全学ファイアウォールシステムを更新した。

- ・ 外部からのサイバー攻撃に対応するために、外部からの通信制限を実施し、部局から申請のあった通信について制限解除の設定を実施した。
- ・ ファイアウォールの設定ルールについて見直しを行い、順次適用した。

(3) ウイルスメールチェック及びスパムメール対策サービスに関する事項

- ・ 各部局等で管理・運用しているメールサーバ等の申請サーバに対して、ウイルス・スパムメールチェックサービスの提供を行った。（利用ドメイン数142）

URL：<https://www.nc.kyushu-u.ac.jp/net/vwall/>

2.5 ネットワーク利用研究支援サービスに関する事項

- ・ 学外の研究ネットワークの活用を推進した。
- ・ 学内ユーザに対する支援やサポートを行い、学外の研究ネットワークの活用支援に努めた。
- ・ 病院キャンパス支線LAN管理者からの依頼に基づき、基礎研究A/B棟、薬学部本館、歯学部本館、医系管理棟のネットワーク強化について支援を行った。
- ・ 医学研究院からの申請に基づき、SINETのL2VPNサービスを利用して九州大学とAWS Cloudを接続した（5/28）
- ・ 情報基盤研究開発センターからの申請に基づき、SINET L2VPNサービスを利用してNII、及び複数大学と接続した。

2.6 ホスティングサービスに関する事項

- ・ 申請に基づき、利用希望組織に対してメールホスティング、ウェブホスティング、DNSホスティングの各サービスを提供した。
- ・ 従来よりもセキュリティを強化した新サーバを構築（CloudLinux8）し、現サーバ（CentOS7）からの移行を行った。

【表 6】2025 年度 ホスティングサービス申請状況

サービス名	申請件数
メールホスティングサービス	145
ウェブホスティングサービス	361
DNS ホスティングサービス	189

2.7 オンライン授業、在宅勤務支援に関する事項

- ・ 自宅等の学外ネットワーク環境における業務を支援するため、全学VPN接続サービスの運用・管理を行った。
- ・ 関係各署からの申請に基づき、以下の情報サービスが自宅等の学外ネットワーク環境において利用可能になっている。
 - ▶ 全学VPNサービスにより利用できる情報サービス
 - ・ 財務会計システム（発生源入力機能・旅費連携機能）
 - ・ 文書管理システム
- ・ 2025年度に123名利用した。
- ・ 財務会計システム及び文書管理システムが、MFAを用いた認証方式でアクセスできるようになったため、2026年3月で全学VPNサービスを終了した。

第3章 認証基盤事業室

3.1 構成員データとアカウント管理

(1) 構成員のアカウントの管理および全学共通 ID(SSO-KID) の発行 【参考資料1】

- ① 職員・学生へ全学共通ID (SSO-KID) の発行を行った。
- ② 職員でない大学活動従事者へ、申請に応じて全学共通IDを発行した。
部局総括担当者からの学外者用SSO-KID申請受付について、Microsoft 365 SharePoint (Power Automate) の共有フォルダによるアクセス管理を行なっている。(2022年2月～)

(2) 利用者サポート 【参考資料2】

電話／Webフォーム／メールにて利用者からの質問や相談を受付けた。

(3) 全学認証基盤システム 【参考資料3】

- ① 全学認証基盤システム(2020年9月～)の安定運用
ベンダーとの保守契約による保守対応を実施(7月、9月)、安定的なサービス提供を行った。
- ② 全学認証基盤システムの更新(本運用開始 2025年9月～)
 - ・ 調達方針： 価格高騰の抑制を目的に、現行構成を基本としたオンプレミスサーバ構成で必要最小限の機能改善・強化を実施。契約方式は6年間のリース契約(2025年10月～2031年9月)とし、初期導入費用と保守費用を一括調達することで経費削減を図る。
 - ・ 契約概要： 契約先 日本電気株式会社、契約金額 月額3,466,100円、6年間合計249,559,200円。※Shibboleth 認証関係は別契約(再構築・保守費用)。
 - ・ スケジュール： 仕様策定(2024.6-9)、入札公告(2024.9)、開札(2024.12)、設計・構築作業(2025.1-6)、検証作業(2025.7-8)、本運用(2025.9-)
 - ・ 主な機能追加・変更
 - a) ハードウェア) ハードウェア暗号化機能の実装(情報漏洩対策)
 - b) ID管理) メールアドレス管理機能強化
 - ・ 全学基本メールアドレス生成ルール変更(ミドルネームを使用しない)
 - ・ 氏名変更時の旧全学基本メールアドレスを別名アドレスとして維持
 - ・ メール送信機能(非在籍時の削除猶予者への案内メール)
 - ・ メール別名システムの既存別名アドレス提供(新規登録・変更不可)
 ※本機能強化によって、既存のADアカウントライフサイクル処理システム及びメール別名システムを2025年9月廃止
 - c) ID管理) SSO-KID発行後、一定期間経過後に未アクティベーションユーザのアカウントロック機能
- ③ システム改修等 ・ID管理システム(利用者Web)で設定可能なSSO-KIDパスワード長の見直し(12～50文字に変更) ※2026年1月適用

3.2 学内情報サービスへの認証機能と構成員情報の提供に関する事項

(1) 利用者認証機能およびデータの提供 【参考資料4】【参考資料5】

全学共通IDによる認証機能およびデータを学内の情報サービスへ提供した。

全学用 LDAPサーバ(4台) → 新環境では2台体制での運用管理(9月)

(2) Shibboleth シングルサインオン (SSO) 【参考資料6】

① Shibboleth認証によるシングルサインオン環境を学内の情報サービスへ提供した。

Shibboleth認証システム(計7台)の運用管理:定期保守の実施(7月)

※ファルコンSC社製品「WisePoint 8」のWisePoint-IdP機能を用いて構築、運用中。

<以下は「WisePoint 8」により実装した機能>

a) 学認用Shibboleth IdP と多要素認証システムの統合、 b) 全構成員を対象にしたワンタイムパスワード(RFC 6238)による多要素認証、 c) 現マトリックス認証は当面継続、 d) DBの冗長化、 e) ユーザ同意機能、他

② SSO関係システム(IdP、DB、QMAX、他)を新環境に移行、本稼働(9月)

③ Shibboleth IdP認証の集約(委譲)先として、Entra ID を利用する方針 新環境のIdPにSAML Proxy機能の追加設定を行った。(9月)

④ サーバ証明書の有効期間短縮化に係るShibboleth IdPの自己署名証明書化対応:検討(9月～)、IdPへの適用(2026年3月)

⑤ QREX(リバースプロキシ) サービス終了(9月)

(3) マトリックスコード認証サービスの提供 【参考資料7】

重要情報サービスのためにマトリックスコード認証による多要素認証機能を提供した。(マトリックスコードはIC職員証に印刷)。

(4) 学術認証フェデレーション

NIIが主催する「学術認証フェデレーション(GakuNin)」に2010年度末に参加した。GakuNinへ参加したことにより、2011年度から、電子ジャーナルなどの外部サービスが九州大学の全学共通ID・パスワードで利用可能である。

3.3 UPKI 電子証明書発行サービスに関する事項 【参考資料8】

(1) サーバ証明書の申請受付と、申請者およびサーバの実在性確認

国立情報学研究所のUPKI電子証明書発行サービスに参加し、学内サーバへサーバ証明書申請の受けを行った。このサービスの利用により、サービス提供の信頼性・安全性の向上、経費削減に寄与できた。

(2) サーバ証明書の有効期間短縮と ACME プロトコルに係る対応

: 情報収集・検討(9月～)、サーバ証明書利用者への通知(1月)

3.4 全学共通 IC カードの運用

(1) IC カードの発行 【参考資料9】

IC学生証、IC職員証、名誉教授の証、パーソナルカード、事業者ICカードを発行した。
また、2026年3月末で有効期限が切れるIC職員証の再発行を行った。

(2) IC カード紛失時の IC 機能停止 【参考資料10】

(3) IC カードの発行に必要なデータの管理

利用者情報やカード個体情報の登録・更新、所属マスタの整備を行った。

(4) IC カード利用サービスへのサービス認証機能および IC カード情報の提供 【参考資料11】

(5) GP (Global Platform) 仕様カードの安定運用

サービス提供者メンバーとの毎月の事業室打合せにおいて、運用課題、不具合、将来の技術動向等に関する情報共有や対応案を検討し、GP仕様のカード (Bタイプ) を安定して運用した。

(6) 生協電子マネーシステムの安定運用 (2025 年 8 月迄)

定期保守点検により電子マネーシステムの運用支援を行った。

(7) 各種サービスの窓口としての支援

学内のサービス提供者および新たなサービス導入を検討している部局等からの相談窓口として支援した。またICカード紛失時の窓口対応の手續のオンライン化を行った。

(8) IC カードを利用したサービスに関する全学調整

今年度は新たなサービスの運用開始はなかったため全学調整はなかった。

(9) 学外機関に対する対応

学外の事業者ICカード発行申請 (5件) を受け付けた。
また、大学生協からの電子マネーシステムに関する相談について対応した。

(10) セキュリティ対応

ICカードを管理するシステム (VRICS)、IC職員証Web申請承認システム、および生協電子マネーシステムにおいてOSセキュリティパッチの適用作業を実施した。
またOSサポート終了にともない各サーバにおいてOSバージョンアップ対応を行った。

(11) VRICS を継続運用するための対応

① VRICS

ミドルウェア更新作業 (2024.5-2025.11) を行い、2025年12月に新システムによる運用を開始した。

② ハードウェア更新

ハードウェア更新作業 (2025.1-8) を行い、2025年9月に新ハードウェアによる運用を開始した。

(12) 生協電子マネーのサービス廃止に向けた対応

九大生協と打合せを実施し、2025年8月に現在の全学共通ICカードを利用する仕組みから生協独自の電子マネーサービス (スマホアプリによるコード決済) へ移行が完了した。

3.5 クラウドサービス導入支援

(1) クラウドサービス利用ガイドラインの管理・運用

クラウドサービス利用ガイドライン改訂（2026年4月予定）に向けた手続きを進めている。

(2) AWS, Microsoft Azure の利用支援

- ① 学内でAWSを利用する際の支援を行った。 【参考資料12】
- ② 情報統括本部でAzureを利用する際の支援を行った。 【参考資料13】

(3) クラウドサービスの導入支援 【参考資料 14】

クラウドサービス利用ガイドラインに基づいて、クラウドサービス導入に関して主にセキュリティ面の支援を行った。

【参考資料1】SSO-KID アカウント発行数（2025年4月～2026年3月）

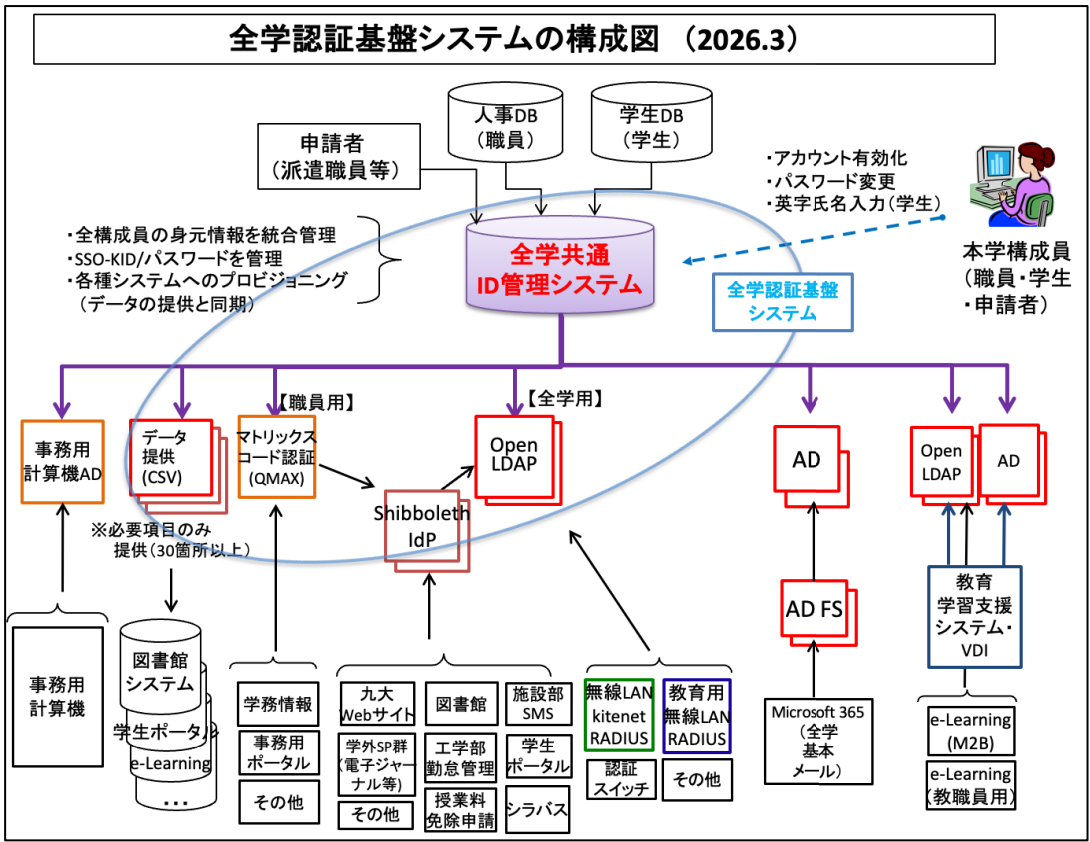
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
職員・申請者	新規発行	930	70	64	63	42	54	161	54	50	63	35	34	1,620
	再発行	11	24	32	14	21	9	11	11	7	10	12	7	169
	申請者発行	105	51	38	51	22	59	88	34	39	20	51	49	607
	月末現在有効数	12,905	12,989	13,034	11,802	11,802	11,846	12,011	12,037	12,062	11,949	11,980	12,109	
	削除猶予者数	1,508	1,505	1,490	204	222	223	344	334	387	285	286	226	
	削除数	70	58	56	1,348	65	58	77	71	69	196	56	119	2,243
学生	正課生有効数	22,367	22,363	22,363	18,825	18,816	18,812	19,149	19,148	19,142	18,702	18,697	18,692	
	非正課生有効数	973	983	962	713	737	733	1,150	1,074	1,044	794	807	918	

※7月の削除者は4月の退職者、学生は月末の有効数（削除猶予者を含む）

【参考資料2】利用者サポート件数（2025年4月～2026年3月）

分類	内容		電話／Web フォーム／メール対応（月）												合計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
全学共通 ID （SSO- KID）	SSO-KID カード発行		5	10	3	5	8	6	18	10	13	12	6	13	109
	パスワード初期化		0	0	1	2	0	7	8	6	3	8	4	3	42
	SSO-KID カード再発行		1	3	3	0	2	0	6	2	2	0	0	1	20
	アカウント有効化		0	1	3	3	1	5	17	5	3	9	4	6	57
	連携サービ スにログイン できない	ID,PW	3	6	9	6	4	8	1	6	5	0	1	49	49
		設定	12	24	0	6	6	10	5	2	5	0	4	78	78
		障害	0	0	0	0	0	2	0	2	2	9	0	22	22
UPKI 電子証明書発行サービス			2	2	1	0	0	0	0	0	1	8	6	3	23
その他（認証関係）			5	8	1	10	6	8	22	5	13	10	7	20	115
月別合計			28	54	21	32	27	37	91	34	45	59	36	51	515

【参考資料 3】



【参考資料 4】 学内情報サービスへの全学共通 ID による利用者認証機能の提供

利用サービス名	部局等
教育学習環境システム、Microsoft 365(全学基本メール)、無線 LAN アクセスサービス(kitenet)、教育用無線 LAN サービス(edunet)、ファイル共有システム、情報統括本部用ウイルス・スキャンチェックサーバ、SMTP 送信サーバ	情報統括本部
事務用計算機システム	情報システム部
遺伝子組換え実験等の電子申請システム	総務部
九州大学電子職員名簿	人事部
ネットワーク認証	病院

【参考資料 5】 学内情報サービスへのデータ提供

利用サービス名	部局等
IC カード申請システム, AD アカウントライフサイクル処理システム, メール一斉送信システム, 全学ソフトウェア, kitenet Wimax 実在性確認, 標的型攻撃メール訓練, 情報セキュリティ対策の自己点検, 教職員向け e-Learning システム	情報統括本部
事務用計算機システム, 電子職員名簿, 事務用 e-learning, 学務情報システム, 事務用メールアドレス, 人事給与システム, 旅費システム, 統合文書管理システム, WEB 給与明細システム	情報システム部
安否確認システム (Anpic), 生涯メールアドレスサービス, 遺伝子組換え実験等の電子申請システム, 個人情報保護研修, ストレスチェックシステム	総務部
教員 DB, 中期目標・中期計画進捗管理システム, エルゼビア (Pure), Tableau	インスティテューショナル・リサーチ室
研究費の管理・監査に係るコンプライアンス教育受講管理	財務部
障害者支援 e-ラーニングの受講状況集計, 九州大学職員評価システム	人事部
スペース管理システム	施設部
TA サポートデスクシステム	学務部
大学における営業秘密管理の e-ラーニング研修	研究・産学官連携推進部
ハラスメント対策・防止 e-learning	ハラスメント対策推進室
研究データ管理用ストレージシステム (QRDM)	データ駆動イノベーション推進本部
図書館電子計算機システム	図書館
英語 CALL 科目ラーニングマネジメントシステム, ELSA Speak ※	言語文化研究院
基幹教育 LMS	基幹教育院
工学部電子投票システム, 工学部技術部業務依頼システム, 工学部掲示板モバイルアプリ	工学研究院, 工学部, 工学部技術部

※2025 年度から提供を開始したサービス

【参考資料6】 Shibboleth 認証の主な利用サービス一覧

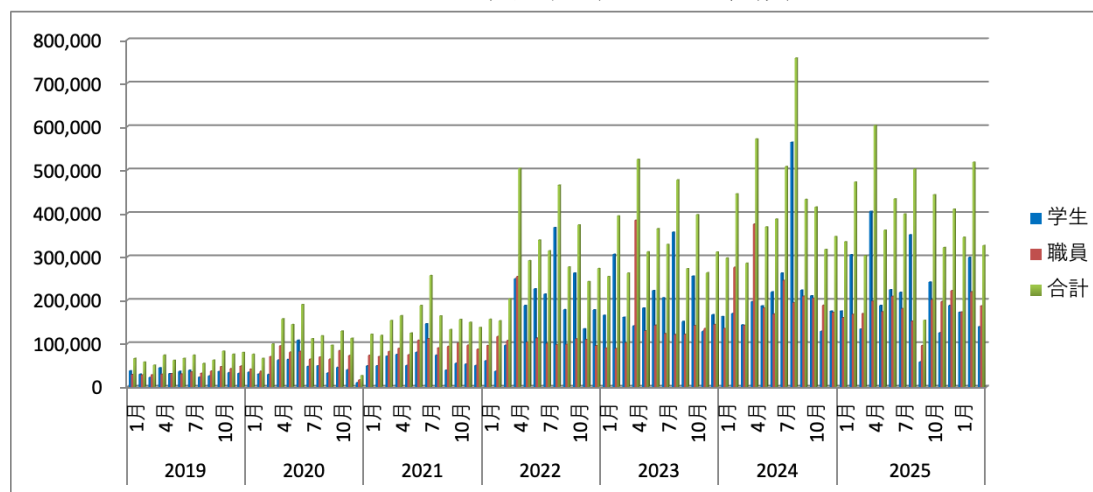
利用サービス名	部局等（学内窓口）
ウェブホスティングシステム, kitenet WiMAX（学認）, KITE ウェブサイト, 全学ソフトウェアオンライン配布管理システム, ソフトウェア事業室 Web サイト, eduroam JP 認証連携 ID サービス(学認), クラウドサービス導入支援 TF の Web サイト, アンケートシステム, SSO ポータル, IC 職員証 Web 申請承認システム, MS365 用 MFA 電話番号登録サイト, 全学基本メール 組織利用サービス用メーリングリスト設定システム, 大学 ICT 推進協議会ホームページ (学認), データ活用社会創成プラットフォーム mdx, 情報統括本部用メーリングリストサーバ, 情報統括本部 Web サイト, データ活用社会創成プラットフォーム基盤高度化システム	情報統括本部
GakuNin RDM(学認), 研究データ管理用ストレージシステム (QRDM), データ駆動イノベーション推進本部研究データ管理支援部門 Web サーバ	データ駆動イノベーション推進本部
メール一括送信ウェブベースシステム	情報システム部
附属図書館 EZproxy システム, 附属図書館 Web サイト, 電子ジャーナル (学認), CiNii (学認)	附属図書館
九州大学 Web サイト, 九州大学職員ストレスチェックシステム, 九州大学環境安全衛生推進室 Web システム, 学内意向聴取システム ※ , UI 名刺 Web 発注システム ※	総務部
裁量労働制適用職員勤務・健康状況把握システム, Web 給与明細システム, 頭脳バンクシステム, 勤怠管理システム, 九州大学職員評価システム, 年末調整システム	人事部
学生納付金免除システム, FD ポータル, TA サポートデスクシステム, 証明書発行サービス, キャリタス UC (学認), Slack, 学生ポータルシステム, iThenticate (eduGAIN), 求人 NAVI, 学修成果可視化システム, 合理的配慮 Web システム	学務部
産学連携本部ホームページ, 研究者向け特許進捗状況閲覧システム, ShareAid クラウドファンディングシステム	学術研究・産学官連携本部
インスティテューショナル・リサーチ室 HP, Tableau, 教員 DB, 中期目標・中期計画進捗管理システム, 学内研究分野ネットワーク可視化システム, IR 室 Web サイト	インスティテューショナル・リサーチ室
住宅賃貸契約支援システム, 学内情報翻訳データベース, International Admissions Assistance System, 交換留学(派遣)システム	国際部
スペース管理システム	施設部
リサイクルシステム	財務部
Web 時間割検索アプリケーション	基幹教育院

I2CNER web safety training	カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
理学研究院・理学府・理学部ホームページ, STEP10 聴講申請システム	理学部, 理学府
総合 Web システム, システム情報科学研究院機器共有システム, 予約管理システム, Q-LEAP LMS (学認), システム情報科学府情報基盤室 HP, UPWARDS サイト	システム情報科学研究院・システム情報科学府
農作物予約販売システム, 工学部電子投票システム, ペーパーレス会議システム, 工学部勤怠管理システム, 工学部技術部業務依頼システム, 工学部技術部汎用アプリケーション, 工学部事務部等 HP, 機器予約システム, 工学部掲示板モバイルアプリ, 建築学科オンラインストレージ, 工学研究院附属国際教育支援センターHP, 研究計画指導システム, 大学院入試 Web 出願システム	工学研究院・工学部
総合理工学府先端エネルギー理工学専攻ホームページ, 総合理工学研究院に所属する研究室のウェブサイト	総合理工学研究院・総合理工学府
REDCap (Research Electronic Data Capture) (学認), 九州大学病院ホームページ	病院
経済学研究院ウェブサイト	経済学研究院
医系学部等事務情報掲示板	医系学部等事務部
筑紫地区事務ホームページ	筑紫地区事務部
農学部等事務部 WEB サイト	農学部等事務部
法学部ウェブサイト	法学研究院
Webwork オンライン自習システム	マス・フォア・インダストリ研究所
法務統括室情報管理システム	法務統括室
人文社会科学系事務部 HP	人文社会科学系事務部
歯学部共通機器予約システム	歯学研究院
アドミッションセンターWeb サイト	アドミッションセンター
Web 問診・アンケートシステム	キャンパスライフ・健康支援センター
寒剤発注システム	低温センター
eLabFTW ※	デジタルラボ推進センター

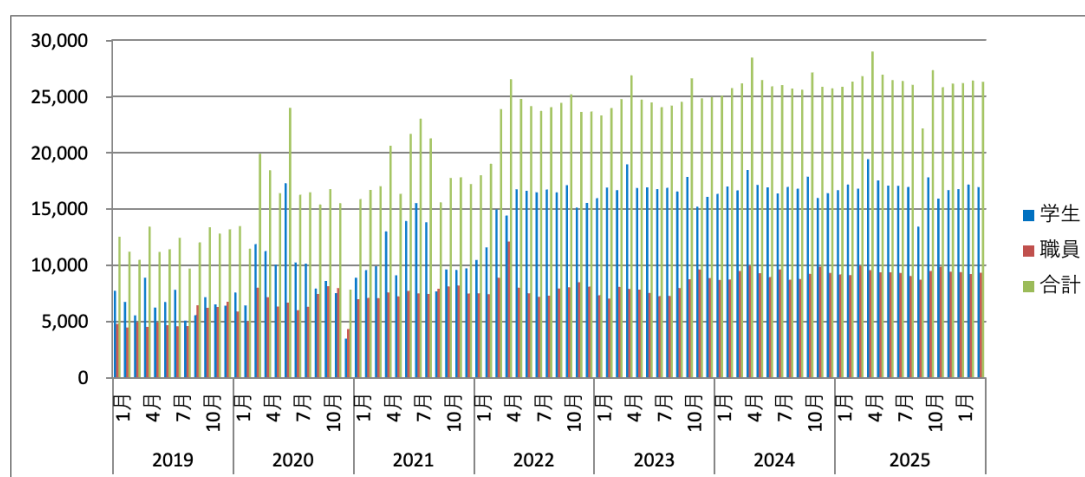
※2025 年度から提供を開始したサービス

- ▶ Shibboleth 利用サービス数 (月平均) : 約 192 (内, 学内約 102, 学外約 90)
- ▶ Shibboleth 利用者の多いサービス: 学生ポータルシステム, 勤怠管理システム, Web 給与明細システム, 九州大学 Web サイト (www.kyushu-u.ac.jp), 裁量労働制適用職員勤務・健康状況把握システム, 附属図書館 Web サイト, 附属図書館 EZProxy システム

Shibboleth 利用者（ログイン総数）



Shibboleth 利用者（ユニーク ID 数）



【参考資料 7】マトリックスパスワード認証システム（QMAX）利用サービス一覧

利用サービス名	部局等	備考
学務情報サービス・教員用 Web システム	学務部	学外ネットワークからの利用
事務用グループウェア	情報システム部	学外ネットワークからの利用
九州大学電子職員名簿	人事部	学外ネットワークからの利用
遺伝子組換え実験等の電子申請システム	総務部	学外ネットワークからの利用

【参考資料8】UPKI 電子証明書配付状況

	発行数	失効数	有効数	備考
サーバ証明書	426	291	390	
クライアント証明書	7	1	15	

※発行数および失効数は、2025年4月～2026年3月の合計、有効数は2026年3月末現在の数

【参考資料9】ICカード統計

ICカード発行数（2025年4月～2026年3月）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学生証	6,519	46	47	40	34	568	39	25	21	35	24	12	7,410
パーソナルカード (研究生)	283	10	8	3	2	126	255	5	9	4	3	8	716
職員証	349	108	75	70	41	45	89	225	148	104	222	246	1,722
パーソナルカード (派遣)	90	26	17	33	11	16	21	10	9	12	6	10	261
名誉教授の証	158	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	163
ゲストカード	348	0	2	0	0	30	21	1	0	0	0	0	402
事業者カード	21	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	25
合 計	7,768	193	150	147	88	786	425	266	188	156	256	276	10,699

有効 IC カード数（2026年3月末現在）

	発行数	停止数	有効数
学生証	131,575	112,983	18,592
パーソナルカード(研究生)	6,795	6,609	186
職員証	27,571	22,506	5,065
パーソナルカード(派遣)	3,339	2,839	500
名誉教授の証	1,925	1,303	622
ゲストカード	7,957	6,141	1,816
事業者カード	913	733	180
合 計	180,075	153,114	26,961

【参考資料 10】紛失時の IC 機能停止数

IC カード機能停止数（2025 年 4 月～2026 年 3 月）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学生証	55	38	39	32	13	20	18	17	11	23	15	16	297
パーソナルカード (研究生)	0	1	1	1	1	0	1	0	2	1	0	0	8
職員証	2	0	2	6	2	3	3	3	3	5	0	6	35
パーソナルカード (派遣)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
名誉教授の証	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ゲストカード	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
事業者カード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	57	39	42	39	16	23	23	20	16	30	15	23	343

【参考資料 11】IC カード利用サービス

サービス	担当部署	状況	認証機能 申請数(※)
建物の入退館	施設部	運用中	—
図書館における入館ゲート・貸し出し	附属図書館	運用中	—
生協電子マネー	生協	終了(2025.8)	103(廃止分)
車両入構ゲートシステム（伊都）	施設部	運用中	8

※認証機能申請数= VRICS 機器接続申請数

【参考資料 12】AWS 利用状況

	管理部局	IP アドレス数
1	総務部総務課広報係（九州大学トップページ）	4
2	芸術工学部	27
3	数理学研究院	1
4	システム情報科学研究院	8
5	学術研究・産学官連携本部	1
6	工学研究院	1
7	総務部総務課秘書係	1
8	学務部学務企画課	2
9	研究・産学官連携推進部研究企画課	1
10	工学部等総務課	2
11	ARO 次世代医療センター	2
12	キャンパスライフ・健康支援センター	3
13	工学部技術部	5
14	情報統括本部	7

【参考資料 13】 Azure 利用状況

	管理部門	仮想マシン数
1	情報統括本部	16

【参考資料 14】 クラウドサービスの導入支援

クラウドサービス利用申請（2025 年度受付分）

	システム名	提出部門	クラウド事業者名
1	Backlog	学務部入試課	株式会社ヌーラボ
2	土山研究室、鉄鋼リサーチセンターホームページ	工学研究院材料工学部門	さくらインターネット株式会社
3	合理的配慮 Web システム	工学部技術部 (学務部学生支援課)	さくらインターネット株式会社
4	STEP10 聴講申請システム	理学部等教務課学生支援係	東京大学大学院理学系研究科情報システムチーム
5	デジタル採点システム (Basic Marker)	学務部入試課	コンバイン株式会社
6	ChatGPT	情報システム部	OpenAI
7	国立大学法人九州大学規則集管理システム	総務部総務課法務室	株式会社ぎょうせい
8	大学院入試 Web 出願システム	工学部技術部 (工学部等事務部教務課)	さくらインターネット株式会社
9	Parsley Lab	工学部技術部 (工学研究院応用化学部門)	さくらインターネット株式会社
10	JBS マイナンバー管理システム	人事給与課給与係	日本マイクロソフト株式会社
11	AI 議事録取れる君	情報システム部情報基盤課	株式会社 ALM
12	データ統合プラットフォーム	情報システム部	Snowflake
13	咳音研究データベース	九州大学アジア・オセアニア研究教育機構 (Q-AOS)	Amazon Web Services (AWS)
14	Slack	総務部秘書室	株式会社セールスフォース・ジャパン
15	教職員向けの学生支援サイト	キャンパスライフ・健康支援センター	さくらインターネット株式会社
16	Slack	ラーニングアナリティクスセンター	株式会社セールスフォース・ジャパン

17	同窓生名簿管理システム	総務部同窓生・基金課	笑屋株式会社
18	Upwards サイト	システム情報科学研究院 情報エレクトロニクス部 門	九州大学情報統括本部ホス ティングサービス
19	温湿度管理システム	附属図書館理系図書館	金剛株式会社
20	入試出願 WEB サイト (TAO)	情報システム部情報企画 課	株式会社 TAO
21	AI 翻訳機ポケットーク	キャンパスライフ・健康 支援センター インク ルーション支援推進室	ポケットーク株式会社
22	LIFE Study データベース	医学研究院	Amazon Web Services (AWS)
23	電子実験ノート (eLabFTW)	工学研究院	Deltablot
24	英語発音学習プラットフォーム (ELSA)	言語文化研究院	Amazon Web Services (AWS)
25	業務依頼システム	工学部技術部	さくらインターネット株式 会社
26	Slack	研究・産学官連携推進部 研究企画課	株式会社セールスフォー ス・ジャパン
27	Google one	学術研究・産学官連携本 部	Google
28	学内意向聴取システム	工学部技術部	さくらインターネット株式 会社
29	AI コーディング支援ツール (Claude Code)	情報システム部	Anthropic
30	writevideo	情報システム部情報企画 課	株式会社 X
31	ApeosPlus desola Technology by AI inside(AI-OCR)	財務部資産活用課総括係	富士フイルムビジネスイノ ベーション株式会社
32	DeepL Voice for Meeting	国際部国際企画課国際企 画係	DeepL GmbH
33	AI 通訳機ポケットーク	国際部国際企画課国際企 画係	ポケットーク株式会社
34	ポケットークライブ通訳(Sentio)	国際部国際企画課国際企 画係	ポケットーク株式会社
35	九州大学医学部同窓会 Web サイト	大学院医学研究院 神経 解剖学分野	ジーイングス株式会社
36	AI チャットボット開発・運用基 盤	ラーニングアナリティク スセンター	Amazon Web Services (AWS)
37	名刺発注システム(ネイムルー ム)	総務部広報課広報係	株式会社山櫻

38	SmartHR（従業員データベース）	情報システム部情報企画課	SmartHR
39	Osiris（企業情報データベース）	附属図書館事務部	Moody's Analytics, Inc.
40	writevideo	学務部学生支援課	株式会社 X
41	デジタル英語学習サービス	言語文化研究院	Amazon Web Services (AWS)
42	温度管理システム	別府病院検査室	PHC 株式会社
43	薬学共用試験 CBT システム	薬学研究院	Amazon Web Services (AWS)

第4章 教育基盤事業室

4.1 教育用 ICT 環境の管理運用に関する事項

(1) 教育情報システムの日常的な管理運用

- ・ M2Bシステムを構成する九州大学Moodle (Webを利用した学習支援システム)、Metaboard (ダッシュボードシステム)、B-QUBE (デジタル教材閲覧システム)のサーバの管理・運用を行った。
- ・ 2025年度合計:6,724コース (2024年度合計:6,730コース)
※注) 2021年度までは前期、後期等の学期ごとの集計をしていたが、クォーター制の講義が増えたり、複数の学期で開講される同一科目を一つのコースとして作成されたりする場合など、コース設置方法が多様化して学期ごとの集計が困難になったため、総コース数のみを記載している。
- ・ M2Bシステムを含む学習教育クラウド基盤のサーバの負荷状況をZabbixというサーバ監視サービスを使って収集し、適宜負荷の確認とサーバ性能の増強/削減の検討および実施作業を行った。
- ・ 2025年8月25日(月)の定期メンテナンス時に九州大学Moodleのメジャーバージョンアップを実施した。
- ・ プログラミング学習用サーバの運用を行った。また、九州大学MoodleとLTI連携してWebブラウザ上でプログラミング学習を行える2つのシステムについて管理・運用やその支援を行った。
- ・ 問い合わせ用LINE bot(SupportQ)を運用するサーバの運用・管理を行った。
- ・ 2024年度から導入している、Moodleと統合されたMoodle用問い合わせ対応AIチャットボットの運用についても継続してサーバの運用・管理を行った。
- ・ 2027年9月の学務情報システム更新に伴い、LMS機能の統合を検討した結果、九州大学Moodleを継続利用することを決定した。
- ・ 2026年3月末をもって、Metaboard、B-QUBEのサービスを終了する手続きを行った。

4.2 教育用 ICT 環境の利用支援及び教育用コンテンツの整備に関する事項

(1) 教育用 ICT 環境の利用支援

- ・ Webページ上の教育用ICT環境に関する情報の更新、掲載を進めた。また、学府新入生と編入学生へのオリエンテーション支援として、アカウントの説明や主な情報システムを紹介した案内文書を作成し、各部局に配布した。
- ・ 全学FDとしてM2Bシステムの講習会を2025年9月12日(金)～10月10日(金)にオンデマンド形式で開催、63名の参加があった。

(2) 教育用コンテンツの整備

教材として、「情報倫理2022年度版」の日本語版、英語版、中国語版、「情報倫理デジタルビデオ小品集」、「よくわかるOffice」の基礎編と応用編をオンライン研修システム上に公開している。

4.3 学生 PC 必携に関する事項

(1) 新入生 PC 準備作業

- ・ 学部新入生が入学前にアカウントの有効化やPCの設定などの準備を行う「入学前PCカスタマイズ作業」のための説明動画やWebページを作成して、自宅での作業を想定した案内を送付した。新入生2,594名のうち、2,325名が設定作業を完了した。
- ・ 学生主体組織のquickQと連携して、説明動画の作成と問い合わせ対応を行った。問い合わせ対応では、2021年度から導入したLINE bot (SupportQ) とLINEによるチャット対応を行った。

4.4 アンケートシステムの運用に関する事項

- ・ 匿名回答を収集できるアンケートを容易に作成し学内外に公開できるアンケートシステムの運用を行った。本システムの利用に関する情報をWebページに掲載している。

4.5 オンライン研修システムの運用に関する事項

- ・ 九州大学Moodleを学生の教育・学習用として最適化していくために、新たに商用パブリッククラウド上に教職員向けのeラーニングシステムを構築し、2020年度前期から運用を開始している。
- ・ 教職員と学生は別システムで研修を受講する必要があったため、受講対象者の見直しと機能改修を行い、学生も本システム上で研修の受講が可能となった。これに伴い、2022年10月に本システムの名称を「オンライン研修システム」に改め運用している。
- ・ 2025年度：145コースの利用（2024年度：124コース）

第5章 学務教務支援事業室

5.1 入学試験機械処理に関する事項

(1) システム（総合型選抜等）の運用・保守

- ・ 学務部入試課及び開発ベンダーと調整し、2026年度入学者選抜の変更点に対応した。
- ・ チェックリスト及び手順書等に基づく検証作業を実施した。
- ・ 2027年度入学者選抜の変更点及び改修要望に伴うシステム改修の準備を開始した。

(2) 入試機械処理の実施

- ・ 学部入試（総合型選抜等）について、志願者処理、成績処理、合格者処理及び入学手続処理等を実施した。

(3) 新システムへの移行検討

- ・ 新システム移行に向け、外部委託の実現可能性、査定処理の分散実施、Excel等による処理の対応可否など、複数の観点から検討を進めている。

(4) その他

- ・ 2025年度入試から一般選抜は学務部入試課主体での運用となったが、入試機械処理関連の一部業務について支援を行った。

5.2 オンライン入試支援に関する事項

「入学者選抜におけるオンライン面接実施のガイドライン（改）について」に基づく部局からの試験実施日におけるネットワーク監視等の支援依頼はなかった。

第6章 ソフトウェア事業室

6.1 マイクロソフト教育機関向けライセンスプログラム (EES: Enrollment for Education Solutions) サービスに関する事項

本学とマイクロソフトとのEES契約に基づき、次に示すマイクロソフト製品の利用(ソフトウェア使用許諾権)を本学構成員(学生、教職員、名誉教授)に提供した。

(1) マイクロソフト Windows OS

- ・ Windows 11 Pro/Education (Arm版含む) (日本語/英語) (アップグレード)

(2) マイクロソフトオフィス (ボリュームライセンス版: 大学所有 PC のみに提供)

- ・ Microsoft Office LTSC Professional Plus 2024 (日本語/英語/多言語)
 - ・ Microsoft Office LTSC Standard for Mac 2024 (日本語/英語)
 - ・ Microsoft Office LTSC Professional Plus 2021 (日本語/英語/多言語)
 - ・ Microsoft Office LTSC Standard for Mac 2021 (日本語/英語)
- ※Microsoft 365 Apps for enterpriseについては、情報共有基盤事業室から提供

(3) マイクロソフト Core CAL (Client Access License) (教職員のみ)

- ・ Windows Server CAL
- ・ Exchange Server CAL
- ・ Share Point Portal Server CAL
- ・ System Center Configuration Manager CML
- ・ Lync Server Standard CAL
- ・ System Center Endpoint Protection CAL

(4) マイクロソフトエクスターナルコネクタライセンス

(学生の個人所有PCから全学的に利用する学内のWindows サーバを利用したシステムにアクセスするために必要なライセンス(サーバ15台分))

- ・ 事務用電子計算機システム関係 10台
- ・ トレンドマイクロ関係 4台
- ・ ダウンロードステーション関係 1台

○ 特記事項

- ・ 2025年度EES契約額が1.5倍に増額したことを受けて、その要因の分析、他大学の動向確認、複数業者(4社)からの見積聴取を行った上で、2026年度の契約手続きを行った。(3月6日開札)

6.2 セキュリティ対策ソフト提供サービスに関する事項

本学とトレンドマイクロ社とのTrend Micro Campus Agreement for Endpoint契約に基づき、トレンドマイクロ社製Trend Micro Apex-One等の利用(ソフトウェア使用許諾権)を本学構成員(学生(非正課生を含む)、教職員、名誉教授)に提供した。

○ 特記事項

- ・ 2025年9月に更新契約を行った。(契約期間:2025年11月~2026年10月分)
- ・ 次期更新については、①OS メジャーアップデートへの対応が遅い、②Microsoft Defender の性能の向上の観点から包括契約を終了することについて検討を行い、情報政策委員会(2025.11)で議決、役員・部局長懇談会(2025.12)で周知を行った上で、2026年2月に学内周知を行った。

6.3 アプリケーション開発用プログラム(iOS版アプリ・Android版アプリ)提供サービス

以下のアプリケーションの開発に必要なライセンスについて、Apple社及びGoogle社と契約し、利用希望者に対して申請・許可などのサービス提供を行った。

(1) iOS版

- ・ Apple Developer Program (学外者への公開も可能)
- ・ Apple Developer Enterprise Program (学内者への公開に限定)

(2) Android版アプリ

- ・ Google Play Developer

○ 特記事項

特になし。

6.4 マスワークス社の MATLAB Campus-Wide License ソフトウェアサービスに関する事項

2023年1月より本学とマスワークス社とのMATLAB Campus-Wide License契約に基づき、MATLAB製品を本学構成員(学生、教職員)に提供してきたが、利用者数が当初想定の半数程度で推移していることから、2026年以降の契約を結ばないこととなり、当該ソフトウェアの利用者に対してサービス終了後の対応について案内するなどサポートを行った。

○ 特記事項

- ・ 2024年12月に契約更新済み。(契約期間:2025年1月~2025年12月)
- ・ 本サービス提供は、2025年12月で終了済み。

6.5 その他

- ・ Adobe Acrobat Pro 2020については、2024年1月に生協での永続版CLPライセンスの販売が終了となったことに加え、テクニカルサポートが2025年11月で終了したことから、再インストール申請の受付を、2025年11月10日で終了した。

第7章 情報共有基盤事業室

7.1 全学基本メールサービスに関する事項

(1) 職員・学生向けメールサービスの提供

2018年12月にMicrosoft 365のExchange Onlineに移行後、現在まで継続して基本的な電子メール機能を提供した。サービス内容はExchange Onlineに準ずる。

▶ メールボックス容量：100GB、保存日数：制限なし、サービス：ウェブメール・SMTP・POP・IMAP・Exchange、その他：迷惑メールフィルタ

(2) 英字氏名に基づく別名アドレス

基本メールアドレスは、職員は英字氏名とSSO-KIDから、学生は英字氏名と乱数から自動生成している。現メールサービス開始当初より、利用者が姓・名・ミドルネームの英字およびそのイニシャルに基づく別名アドレスを選択して利用できる別名アドレス設定システムを運用してきたが、全学認証基盤システムの更新に伴いメールアドレス生成ルールを姓名のみ（ミドルネーム不使用）に変更したこと、また別名設定の利用者数が少ないことから、2025年7月末をもって運用を終了した。2025年7月末の時点での別名設定者数は252名（職員81学生171）だった。

(3) 送信アドレス変更用 SMTP 送信サーバ

Exchange Onlineは利用者でメールの送信アドレスを自由に変更できない仕様のため、業務上の必要性や別名アドレスの利用などで送信アドレスを全学基本メールアドレスから変更したい利用者用に、SMTP認証付きのメール送信サーバを独自に運用し提供している。

(4) 全学基本メール 組織利用サービス

学内の学部・学科・研究室などのkyushu-u.ac.jpサブドメイン（以下組織ドメイン）の電子メールを、全学基本メールのExchange Onlineを用いて運用できるサービスを提供している。2026年3月末時点で28ドメイン（うち1つは100サブドメインを含む）が運用している。Exchange Onlineの配布リスト・共有メールボックスと、mailmanによるメーリングリストを利用可能。

(5) 利用者サポート

2021年9月よりMicrosoft Formsの間合せフォームを活用したユーザサポート体制を取っていたが、利用していたチケットシステムに不具合が発生したため、2023年7月より商用サービス（サイボウズ社メールワイズ）に移行した。メールおよび電話による相談窓口も引き続き提供している。

(6) 生涯メールアドレスサービスの迷惑メール対策への協力

九州大学生涯メールアドレスサービス (<https://kyudai.jp/>) のメールをExchange Online経由にすることにより迷惑メール対策のコスト削減に協力することとなった。2020年1月末より試行運用し、問題がなかったため2020年度から本運用開始とした。なお管理上の都合から全学基本メールのテナントとは別の専用テナントとし、本事業室で専用テナントの管理を有償で請け負っている。

7.2 ファイル共有システムに関する事項

(1) 職員用ファイル共有システム (<https://archive.iii.kyushu-u.ac.jp/>)

メールの添付ファイルを削減し、機密性の高いファイルを直接添付してやり取りする必要があるようにするために、職員専用のファイル共有システムをAWS上のサーバで提供している。容量は一人20GBで保存日数の制限は無い。また容量が不足する利用者のため有償サービス（容量100GB、月額料金1,000円）を提供している。【参考資料1】

本システムは保存容量の増大により仮想サーバの維持費用が高くなってきているが、保守性等を考慮しクラウドでの運用を維持することとし、2021年10月より保守体制の見直しを実施しAWS上の新サーバで運用している。

7.3 学内構成員への一斉連絡機能に関する事項

(1) 一斉同報および応答確認機能の提供

全学基本メールの宛先に定型連絡文を送付する一斉同報システムを事務連絡および緊急連絡のために提供した。応答確認機能については、総務部総務課で安否確認システムの商用サービスへ移行した。また、一斉同報部分については2019年度より新システムで運用している。

7.4 Microsoft 365 利用者のアカウント管理に関する事項

(1) 全構成員のアカウント管理

職員、学生、名誉教授、申請者へのMicrosoft 365のアカウント発行（管理）を行った。【参考資料2】

※Microsoft 365 Appsのライセンスは、SSO-KIDが「a」から始まるSSO-KID申請者（名誉教授を除く）は、対象外。

Microsoft包括契約（EES）のAzure AD Premiumの機能（動的グループにライセンスを割り当てる）を用いて、ID管理システム（IDM）との連携により、Microsoft 365の利用者ライセンスの割り当てを自動処理化している。

(2) 窓口業務

相談窓口にて、利用者からの質問や相談を受付けた。【参考資料3】

(3) アカウント連携システム等

Microsoft 365アカウント連携システムおよびADアカウントライフサイクル処理システムについて、以下の対応を行った。

- ・ 定期的なシステム保守作業を実施し、安定的なサービスを提供した。

(4) 多要素認証（Multi-Factor Authentication）

Microsoft 365利用におけるセキュリティ対策強化のため、2026年9月を目標に本学構成員に提供しているMFAの必須化を進める方針が認められた。2026年1月5日から8月31日までを経過措置期間としてMFA必須化の運用を開始した。

7.5 Microsoft 365 の機能活用に関する事項

Microsoft 365の機能活用に向けた整備、検証、運用、および広報活動

(1) Microsoft 365 各種アプリケーションサービス

Microsoft 365 Apps、OneDrive for Business、Teams、Azure Information Protection、SharePoint Online、他の運用を行った。

申請制でのTeamsチーム作成機能を提供した。

(2) Microsoft 365 利用者ポータルサイトの更新

掲載情報を更新・追加した。(随時)

(3) Microsoft 365 の暗号化機能 (Azure Information Protection(Azure RMS))

Microsoft 365の暗号化機能を本学構成員に提供している。

(4) Microsoft 365 テナント容量制限への対応

教育機関向けMicrosoft 365テナントの保存容量縮小への対応として、OneDriveの容量制限及び有償での容量緩和サービスの計画を実施した。

(5) 教職員によるユーザー検索機能の制限緩和

検索機能の制限を見直し、Power Apps, Power Automate, Planner等でユーザの検索・共有ができるよう改善した。

7.6 Webex 運用に関する事項

- (1) 2026 年度以降の Webex の運用について、ライセンスコストの増加及びゲスト参加によるセキュリティリスク等を踏まえ、2025 年度末をもって運用を終了した。

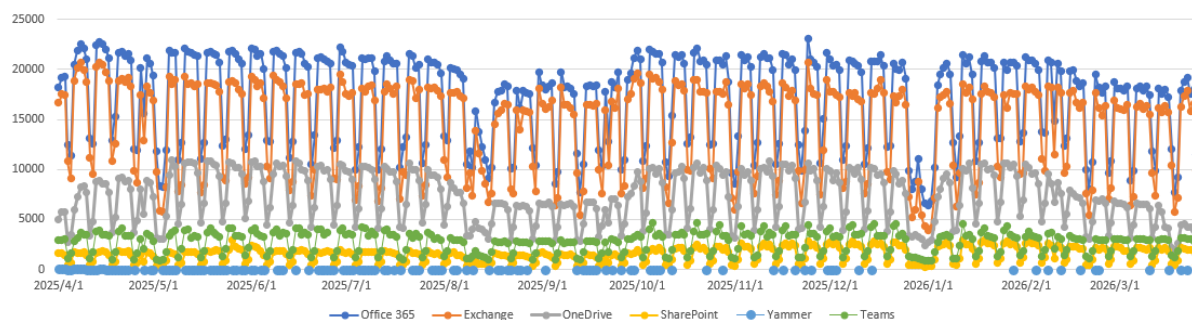
【参考資料1】ファイル共有システム利用統計（2025年4月～2026年3月）

(1) 職員専用ファイル共有システム (<https://archive.iii.kyushu-u.ac.jp/>)

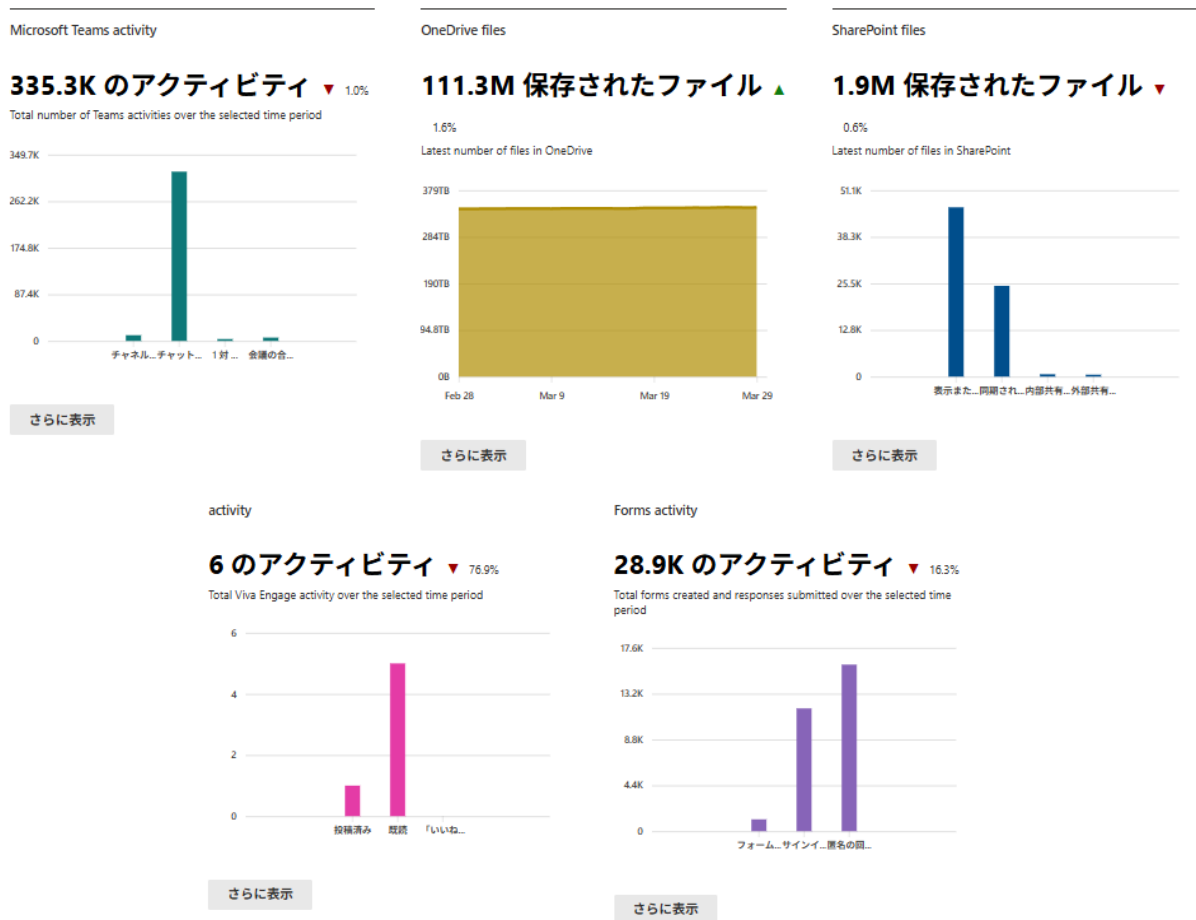
月	利用者	ダウンロード		アップロード		受取フォルダ		ストレージ 使用量(MB)
		回数	量(MB)	回数	量(MB)	作成数	upload 数	
4	4,321	3,648,421	6,895,718	444,036	1,389,434	957	30,382	18,040,374
5	4,333	3,222,874	6,110,985	399,978	1,094,173	857	37,496	18,160,106
6	4,274	4,028,718	7,258,037	326,496	1,096,350	773	28,159	17,894,671
7	4,384	2,854,172	5,675,581	334,317	1,507,523	1,064	18,960	18,214,065
8	4,223	2,743,083	4,346,102	316,734	1,057,573	671	20,588	18,462,255
9	4,214	3,603,028	5,520,290	370,131	1,240,872	662	31,405	18,828,220
10	4,280	2,766,475	6,113,278	314,329	1,339,484	787	15,920	19,132,819
11	4,118	2,798,916	5,461,435	249,090	1,249,894	763	36,303	19,467,543
12	4,190	3,001,516	5,743,828	325,579	1,293,505	800	41,381	19,513,652
1	4,192	2,411,050	4,631,529	270,995	1,041,483	1,213	25,450	19,704,076
2	4,158	2,652,061	5,237,574	234,085	1,126,614	1,520	25,811	20,001,451
3	4,252	3,145,497	6,769,400	513,987	1,782,299	1,116	42,891	20,345,476

【参考資料2】Microsoft 365 利用状況（2025年4月～2026年3月）

(1) Microsoft 365 アクティブユーザ数



(2) Microsoft 365 アプリケーションの利用状況 (2026 年 3 月 31 日現在)

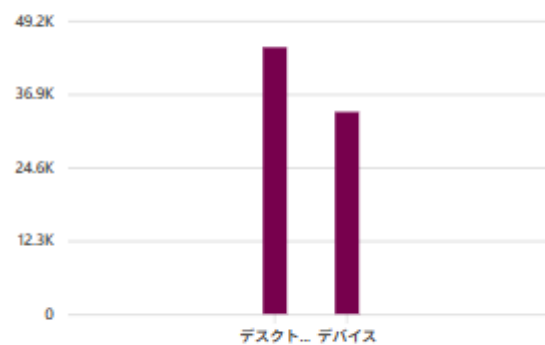


(3) Office (Microsoft 365 Apps) のライセンス認証数 (2026 年 3 月 31 日現在)

Office activations

78.6K アクティブ化

Total number of Office activations over the selected time period



さらに表示

【参考資料3】利用者窓口への問合せ件数（2025年4月～2026年3月）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Microsoft 365	120	89	62	87	36	42	75	92	60	37	41	87	828
メール・Proself	82	44	42	39	28	28	43	18	19	30	32	34	439
MFA	0	0	0	0	0	0	0	0	31	13	1	8	53
その他	2	3	1	5	3	5	7	12	9	10	13	15	85
計	204	136	105	131	67	75	125	122	119	90	87	144	1405

第8章 ISMS運用事業室

8.1 ISMS の継続的な運用

(1) 年度計画に基づく計画の遂行

① 情報セキュリティリスクアセスメントの実施

情報セキュリティリスクアセスメントを実施し、適用範囲内の事業室・事務部等で管理される情報資産が保有する情報セキュリティ上のリスク評価を行った。

(実施期間：2025年7月22日～9月19日)

昨年度のISMSサーベイランス審査・移行審査での指摘事項を踏まえ、「情報資産一覧表」に「供給者が提供するサービスの有無」の項目を追加し、リスク値評価の見直しを行った。

実施結果として、本学が定める情報セキュリティリスク受容基準値を超える情報資産を2件確認し、保有するリスクに対応するためのリスク対応計画書を作成した。

② 内部監査の実施

ISMSが適切に機能していることを確認するため、内部監査員を選定し、適用範囲に対するISMS内部監査を実施した。なお、不適合事項を含む発見事項はなかった。

(実施期間：2025年10月～11月)

③ 適用範囲の文書見直し等説明会の実施

ISMS適用範囲構成員に対し、主にISMSマニュアルを中心としたISMS関連文書の変更点等について、オンライン研修システムを利用した説明会を開催した。(2025年8月実施)

④ 内部監査員養成研修の実施

内部監査員養成研修を実施し、新たに5名が内部監査員有資格者として追加された。なお、情報セキュリティ監査における連携を目的に福岡教育大学から1名が研修に参加した。(開催日：2025年9月9日)

(2) 課題の継続的な検討、改善

他事業室より提出された不適合・是正処置報告書(3件)においては是正処置対応を行った。

また課題管理において、第三者認証機関によるISMS認証の継続審査、内部監査及びマネジメントレビューでの指摘事項による対応のほか、全221課題(2024年度からの継続課題を含む)について、見直しや改善に向けた検討を行い、ISMSマニュアル改訂やリスクアセスメント実施手順の見直し対応等221課題について対応を完了した。

(3) ISMS 文書見直し

2025年3月から6月にかけて、以下のISMS文書について記載内容の改訂を行い7月に施行した。

- ・ ISMSマニュアル
- ・ 組織のセキュリティに関する規程
- ・ 事業従事者に関する規程
- ・ サーバ室等の環境に係る指針
- ・ 情報セキュリティ目的及び目的を達成するための計画
- ・ 情報資産一覧表

- ・ 機密保持契約の運用に関する規程・規範
- ・ 装置のセキュリティ管理に関する規程・規範
- ・ アクセス制御に関する規定・規範
- ・ 適用法令一覧表
- ・ 情報関係法令等相関図

(4) 第三者認証機関による ISMS 認証のサーベイランス審査

第三者認証機関（BSIグループジャパン株式会社）によるISMS認証のサーベイランス審査を受審した。

（2026年2月17日～19日実施）

審査の結果、基準に準拠しており、認証継続となった。

8.2 情報セキュリティ監査

病院地区のメディカルインフォメーションセンター（MIC）をはじめとする学内の複数部局に対して情報セキュリティ監査を実施した結果、重大な違反や課題等の問題点は発見されなかった。実施結果はCIO及びCISOに報告し、監事及び監査室と情報を共有した。（実施期間：2025年6月～2026年3月）

第9章 デジタルID検討タスクフォース

9.1 Felica カードの代替可能性の調査に関する事項

大学独自のFelicaカードを発行するために選定を行い、実際の手続き方法や運用に際しての注意事項等について調査を実施した。

- ・ 全国で実績のあるFCF推進フォーラムによる「FCFカード」での手続きについて調査した。
- ・ カード切替の際はサービス事業者側(特にICリーダの数が多く入退室管理システム)の対応を考慮する必要がある。

9.2 スマートフォン・デジタルIDの実用性調査に関する事項

国内の主要な大学においてデジタル身分証の導入・検討状況や課題について調査を行った。また、実際にデジタル身分証を導入した大学の運用状況についてヒアリングを実施した。

- ・ 第45回全国共同利用情報基盤センター長会議にて参加校(約9校)の導入・検討状況を確認した。
- ・ 2025年1月からデジタル学生証を運用開始した大阪大学へヒアリング及び現地訪問にて運用状況の確認を実施した。

9.3 九州大学におけるデジタルID方針の提言に関する事項

調査結果に基づき、「九州大学におけるデジタルID方針の提言書」の作成を行った。

第10章 九大 CSIRT

10.1 情報インシデントの応急対応

- ・学内外に対する一元的な窓口として、情報セキュリティインシデントに関する通報に対し、通報者への連絡対応や、該当の支線LAN管理者へ調査を依頼する等、ハンドリングを行った。
- ・セキュリティポリシーに対応したファイアウォールの運用を実施し、P2Pソフトウェアの使用による不正な情報通信の遮断を実施した。
- ・国立情報学研究所セキュリティ運用サービス (NII-SOCS) からの情報提供に基づき、インシデント対応を実施した。
- ・情報統括本部から当該支線LAN 管理者へIDS による検知通知を行っているが、通知しても反応がない場合、踏み台による攻撃や著作権侵害などを防止するとともに、利用者に不具合を知らせるために次のような対応を実施している。
 - ▶ インシデント通知後、翌日正午までに返答がない場合、当該IP アドレスのフィルタを行う。
 - ▶ ただし、申し出があった場合は速やかに解除を行う。

10.2 情報インシデントの調査、事後対策

- (1) インシデント状況について、情報政策委員会 (6月17日、11月19日、2月13日) 及び役員・部局長懇談会 (12月18日、3月13日) で報告を行った。
 - ・2025年度に81件のインシデントの対応を行った。内訳は、ウイルス・ワーム感染系34件、セキュリティ被害及び不正利用系35件、その他12件であった。
 - ※ 2025年度 情報セキュリティインシデント管理状況 【参考資料1】
- (2) キャンパス内のセキュリティ状況の把握及び対策について
 - ・情報セキュリティインシデントが発生した場合の処理フローにしたがって、31件の報告書を処理した。
 - ・インシデントの調査結果を基に、全学ファイアウォール、全学基本メール、情報統括本部が管理するサーバー等について、セキュリティ強化を実施した。

10.3 情報インシデントの事前防止

- (1) 注意喚起等
 - ・不審なメールに関する注意喚起や、長期休暇中 (ゴールデンウィーク、夏季休暇、年末年始) の著作権侵害等の違法行為の未然防止に関する注意喚起を行った。(九大CSIRT HPに掲載、部局長等へ通知)
 - ・脆弱性の対策情報を収集し、サーバ等の管理者向けに情報提供を行った。(九大CSIRT HPに掲載)
 - ・「情報セキュリティガイド」を教職員、学生、その他利用者へ配布した。
(九大CSIRT HPにおいて電子版を配布)

(2) 標的型攻撃メール訓練の実施

- ・ 標的型攻撃を体験し、理解を深めるとともに、インシデントへの対応の手順の確認を目的として、全教職員を対象に標的型攻撃メール訓練を10月に実施した。また、訓練実施後には、種明かしメールを送付するとともに、今回の訓練内容や、標的型攻撃メールの理解を深めるための説明資料を用意し、事後学習を行った。

(3) 情報セキュリティ教育 e ラーニングの実施

- ・ 情報セキュリティ対策基本計画室及びISMS運用事業室とともに、情報セキュリティ意識及び知識の向上を図ることを目的としてeラーニングによるセキュリティ教育を7月に実施した。

(4) 脆弱性診断の実施

- ・ 学外公開の申請があったサーバーに対して脆弱性診断を行い、脆弱性の有無を事前に確認した。また、インシデント対応時やサーバー管理者からの要望に対して適宜脆弱性診断を行った。

10.4 日本シーサート協議会及び学術系 CSIRT 交流会

- ・ 日本シーサート協議会全体会合に参加し、情報収集を行った。(8月29日)

10.5 情報インシデント対策に関する広報や文書作成

- ・ 情報インシデント対策に関する注意喚起に係る文書等を作成し、学内に注意喚起を行った。
 - ① Microsoft 製品の脆弱性対策について (4月～3月)
 - ② macOSのサポート期限及びApple製品のアップデートについて (4月～3月)
 - ③ ゴールデンウィークのインターネット等の利用について (通知) (4月)
 - ④ パスワードの適切な設定及び管理の徹底について (5月)
 - ⑤ 夏季休暇中のインターネット等の利用について (通知) (7月)
 - ⑥ Windows 10のサポート終了について (注意喚起) [再掲] (9月)
 - ⑦ 多要素認証の活用及びパスワードの適切な管理の徹底について (10月)
 - ⑧ 指導教員になりました詐欺メールについて (注意喚起) (10月)
 - ⑨ 学内システムアカウントに対する強固なパスワードへの設定変更等について (12月)
 - ⑩ 年末年始のインターネット等の利用について (12月)
 - ⑪ 九州大学総長名等を騙る不審メールについて (注意喚起) (1月)
- ・ 脆弱性対策情報を収集し、管理者向けに情報提供を行った。
 - ① Oracle Java の脆弱性対策について(4月、7月、10月、1月)
 - ② ISC BIND 9における脆弱性について (5月、10月、1月)
 - ③ React Server Componentsの脆弱性について (CVE-2025-55182) (12月)

【参考資料 1】 2025 年度 セキュリティインシデント管理状況

	項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
2025 年度	ウイルス・ワーム感染系	0	4	0	1	1	5	7 (1)	7	4	1	1	3	34 (1)
	セキュリティ被害不正利用系	2 (1)	5 (1)	3	0	3	2	4	2	5	1	5	3	35 (2)
	著作権関連	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	4	1	0	0	0	3	0	2	0	1	1	12
	計	2 (1)	13 (1)	4	1	4	7	14 (1)	9	11	2	7	7	81 (3)

	項 目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	計
年 度 別	ウイルス・ワーム感染系	18 (3)	32 0	14	29 (10)	34 (1)	127 (14)
	セキュリティ被害不正利用系	199 (180)	72 (63)	40 (2)	70 (5)	35 (2)	416 (252)
	著作権関連	0	0	0	2	0	2
	その他	11	4	5	5	12	37
	計	228 (183)	108 (63)	59 (2)	106 (15)	81 (3)	582 (266)

※ 全学ファイアウォール等による検知及び学内外から報告があったインシデントの件数、ただし、件数欄の（ ）内は NII-SOCS で検知されたもの。

【2025 年度 主なインシデントの内容】

- ・マルウェア感染（暗号資産）
 - ・SSO-KIDの不正利用
 - ・フィッシングサイトへのアクセス（入力）
 - ・メールの大量送信
 - ・EZproxyへの不正アクセス
 - ・アカウント情報の漏洩
 - ・SSHへの不正アクセス
 - ・ウェブサイトの脆弱性をついた攻撃（XSS）
 - ・ウェブメールRoundcubeの脆弱性
 - ・React Server Componentsの脆弱性
 - ・クロスサイトスクリプティングの脆弱性
 - ・.gitフォルダの公開
 - ・監視カメラ映像の送信
 - ・ホスティングサーバへのDDos攻撃
 - ・媒体の盗難、紛失（iPad、PC）
 - ・メールの誤送信
 - ・作業ミスによる大量の返信メール送信
 - ・サポート詐欺
 - ・総長名を騙る不審メール
- 34件(うち15件)

8件

7件(うち5件)

3件

2件

2件

1件

1件

1件

1件

1件

4件

2件

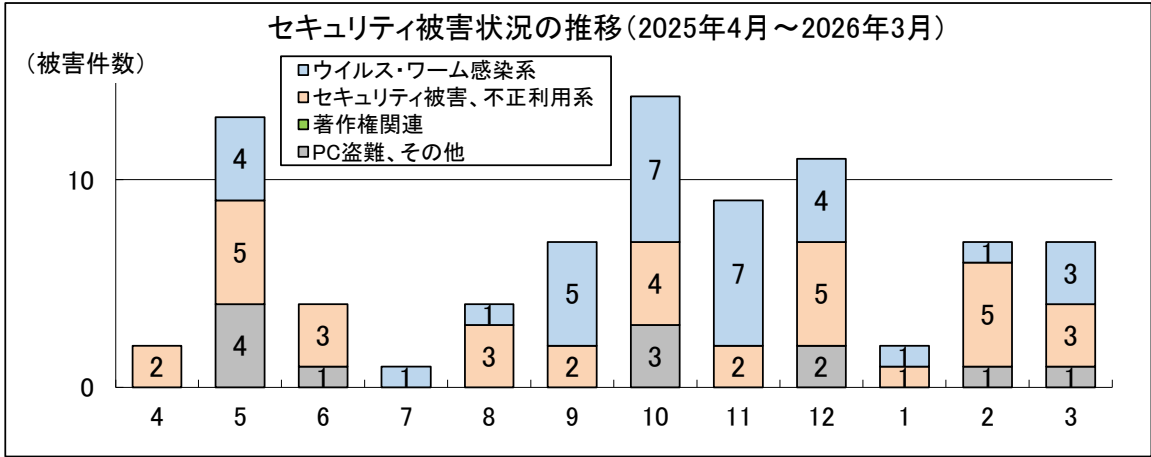
1件

7件

2件

1件

1件



第 11 章 情報セキュリティ対策基本計画室

11.1 サイバーセキュリティ対策等基本計画の遂行

「九州大学サイバーセキュリティ対策等基本計画」について、各事業室や関係部署と連携を密にしながら進捗状況の管理・情報共有を行い、それぞれの計画事項を着実に遂行した。

11.2 活動内容

九州大学サイバーセキュリティ対策等基本計画に基づき、本学における情報セキュリティ確保に向けた活動を行った。主な活動内容は以下のとおりである。

(1) 情報収集の実施

- ・ 国立大学法人等情報化連絡協議会 (2025年5月30日)
- ・ 九州地区国立大学法人等情報化連絡協議会 (2025年7月15日)
- ・ 福岡県サイバー攻撃対策協議会総会 (2025年11月4日)

(2) 研修等への参加

- ・ CISO・戦略マネジメント層研修 (2025年11月10日)
- ・ CSIRT研修 (応用編) (2025年11月17日～21日)

(3) 標的型攻撃メール訓練の実施

標的型攻撃メール訓練を実施 (2025年10月) し、標的型攻撃メールへの理解を深めるとともに、訓練終了後には訓練内容に関する説明資料を配付し啓蒙活動を行った。

(CISOから役員・部局長懇談会で報告済み (12月))

(4) 情報セキュリティ教育等の実施

九大CSIRT及びISMS運用事業室とともに、全教職員を対象とした「eラーニングによる情報セキュリティ教育」と「情報セキュリティ対策の自己点検」を実施した。(2025年7月～2026年3月)

(5) 内部監査の実施

「九州大学情報セキュリティ監査要項」に基づき、学内複数部局を対象に情報セキュリティ監査を実施した。(2025年10月～2026年3月)

(6) 学内に向けた注意喚起・啓発活動

構成員に対してメールやHP掲載等を通じた注意喚起や報告を行い、情報セキュリティに関する啓発・啓蒙に努めた。

- ・ 長期休暇中 (ゴールデンウィーク/夏季休暇) のインターネット等の利用について
- ・ 多要素認証の活用及びパスワードの適切な管理の徹底について
- ・ 学内システムアカウントに対する強固なパスワードへの設定変更等について
- ・ 指導教員になりました詐欺メール及び総長名等を騙る不審メールについて
- ・ Windows 10のサポート終了について
- ・ Microsoft 製品等に対する脆弱性対策について 等

(7) 九州大学情報セキュリティ関連規程等の整備

九州大学情報セキュリティ基本対策ガイドラインの見直しを行った。